ヴェネズエラ

1．在ヴェネズエラ日本国大使館

・当地への日本人移住者は、ドミニカと違ってペルーからの転住者や、日本から自由意志で転住してきたものであり、コロニーというところがなく、実際に日系人が居住しているところを正確に把握することは困難である。

・当地の日系人社会は、そのほとんどがいわゆる中間所得者層に属しており、出稼ぎを目的とした日本への就労者は全くない。

・名目的には二つの日系人団体が存在しているが、頼れるような日系人社会の基盤がない。しかし、日系人社会を代表する形で大使館に要望・陳情等は上がってこない。

・コロンビア人の間では、日本語教育に対する関心と熱意が強く、日本語だけでなく、日本の文化についても強い関心を示している。この間、日本週間を開催したのですが、盆栽・折り紙・空手・柔道・合気道、みんな現地の人たちの作品です。日本文化について日系人も無視できなくなった。

・日本語を習いたいという非日系人は中級クラスまでわあっと集まるが、上級クラスまで残るのは、ほんの僅かで途中脱落してしまう。

・日系研修員制度は、日系人社会における実際のニーズにあった研修ができるとのことであり、具体的ニーズの調査を行うことを前提として大いに活用できる制度である。

伊藤　昌輝大使　表敬挨拶

2．ヴェネズエラ日本人会、カラカス日本人会との意見交換

右手がヴェネズエラ日本人会長　伊藤米太郎
左手がカラカス日本人会長　竹内　浩之

沿革：

日本人のヴェネズエラ移住は、1928 年 11 月 7 日、神奈川県出身の故矢澤清治朗氏が油田発見と鉱区権取得を目的に単身クマナ港に第 1 歩を印した時を原点としております。

矢澤氏のあとパナマやペルーを経由してヴェネズエラに渡って来られた方々が、貿易・商工業などを中心に飛躍的な発展を遂げて来ました。

他の南米諸国に比べ、僅か千人に満たない日系人が二世を中心に商工業界は勿論、広く教育、科学、医学など各種分野での信用を高め、実力が認められ、ヴェネズエラ社会に貢献されている。

日系人 4 団体の設立経緯：

・ 1975 年ヴェネズエラ日本人会結成、初代会長に米倉道夫が就任。
・1986 年マラカイボ日本人会結成、初代会長に芹澤芳太郎が就任。
・1995 年ボリーバル日本人会結成、初代会長に石川新助が就任。
・1999 年カラカス日本人会結成、初代会長に竹内浩之が就任。

ヴェネズエラ日本人会及びカラカス日本人会との意見交換：

・カラカス日本人会は、連合会組織を作るため 3 年前に発足した。
・ヴェネズエラ日本人会は歴史はあるが、組織的に機能していない。

・今の２団体はバラバラ、来年度から日系人二世・三世を中心とした連合会システムを作り、横の連絡を取り合おうと考えている。
・日系研修員の応募は全て大使館経由で行っている。
・現在は大使館が一本釣りしているが、これから団体のバックグランドで推薦してもらう方法が望ましい。（大野領事）
・今、我々団体の組織力がないから、募集のパンフレット等流しても反応は出てこない。大使館との強い連携があるため、先ず、我々団体の組織力を強固にすることが先決、日系人の存在価値をアピールすることは難しい。
・この国で一番弱いのが日本語でネックとなっている。

３．帰国日系研修員との面談

在ヴェネズエラ日本国大使館会議室において

児玉　純男（1991 年度、移住者子弟一般技術／コンピュータ）
和田　恭子（1992 年度、移住者子弟一般技術／コンピュータ・グラフィック）
堀江　亜美（1996 年度、移住者子弟一般技術／観光業務）
児玉　真由実（H10、集団／日本語専修）
北尾　頼江（H12、集団・長期一般技術／情報処理）

ア．児玉　純男　リカルド（３８才）、３世
帰国後の進路：クリエー（ＯＣＳ）業務
所　　感：祖父はパナマから当地へ渡って来た。
研修先の太陽学園では日本語で苦労した。

再研修について、子供が小さいので単身では無理、子供が成人になったら、もう一度日本に行ってみたい。

イ．和田　恭子（３４才）２世

帰国後の進路：日本大使館勤務

所　　感：父は日本から直接当地へ渡って来た。

研修先の神戸芸術工科大学で１年半にわたりｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・ｸﾞﾗﾌｨｯｸの授業を受講し、かなりの専門性を習得出来、大変役に立っている。

家庭内では日本語で会話していたので、日本語は不自由しない。

研修制度の年令制限の度合いが良くわからない。例えば、１８才の人が応募して来た場合、ＪＩＣＡは認めないという方針で徹底してきたと思いますが、もう少し柔軟性を持たせた方が良いと思います。

ウ．堀江　亜美　アナベル（３１才）３世

帰国後の進路：エージェント業務に勤務、昨年から東京海上に再就職。

所　　感：祖父はパナマから当地へ渡って来た。私は児玉さんのいとこに当たる。

研修先の国際観光専門学校では、日本語のレベルが低かったので最初は言葉の問題で苦労した。

エ．児玉　真由実　ロサリナ（３１才）３世

帰国後の進路：三菱商事勤務

所　　感：研修先のひろしま国際センターで、日本語の基礎を勉強出来て大変満足しております。他の３名は余り日本語を話せなかったので、研修期間中私がコーデネートしました。

オ．北尾　頼江　アナ（２９才）２世

帰国後の進路：住友商事勤務

所　　感：研修先の岩崎学園情報科学専門学校では、エクセルの授業時間が短かった。もう少し時間があれば完全にマスターできた。

所見：上記５名はいずれも日本の進出企業に勤務していることから、みんな日本語がしっかりしている。特に、大使館に勤務している和田帰国研修員は、ＪＩＣＡの調整員的な役割を果たしている。

左から北尾　頼江・児玉　真由実・堀江　亜美　帰国研修員

和田　恭子・児玉　純男　帰国研修員

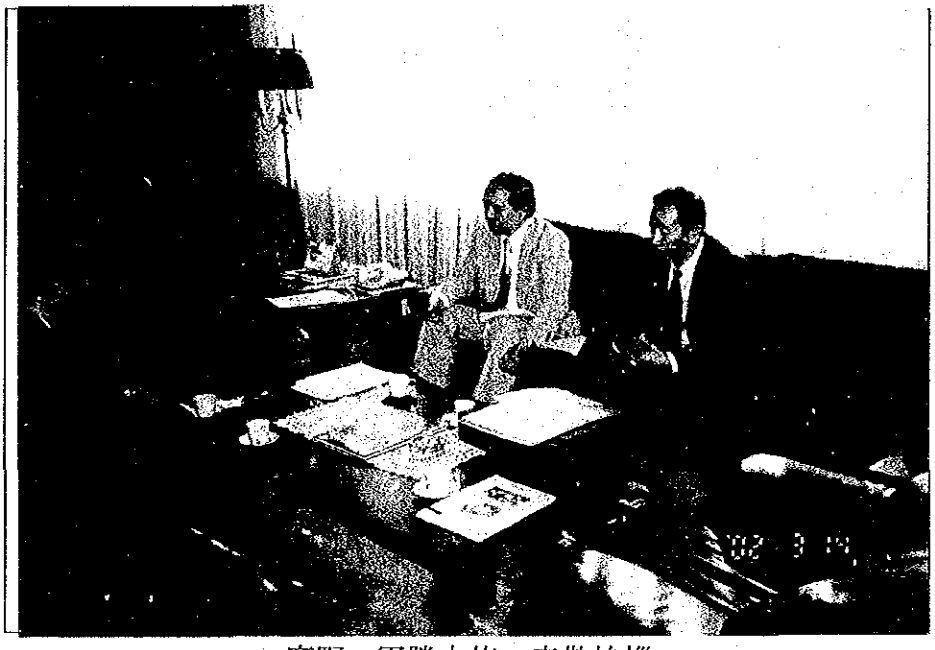
コロンビア事務所管内

1．在コロンビア日本国大使館

・当国には、カリ市に日系人協会があり、当大使館と日系人協会との間では定期的に会合を持っている。同協会の新地会長は、農業分野で当国の地域発展に大いに貢献している。

・日系人子女の日本語を勉強したいというニーズがどの程度か不明であり、そもそも当国には、大学を含め、日本語の勉強ができる機関がない。

・カリ市の日系人は農業で成功しており、その一部はかなり裕福である。



鹿野　軍勝大使　表敬挨拶

2．コロンビア事務所

・管内の募集方法については、日系人の多いカリ市のコロンビア日系人協会及びボゴタ市の日系企業等を介して募集を行っている。以前はボゴタ市の日系人協会が存在していたが、自然消滅してしまった。

・選考についても、協会にいわば一任している。リクルートの段階で事務所が関与することが難しいので、協会の推薦者を配慮している。

・技術協力関係の研修員については、来日前オリエンテーション・帰国報告会を実施しているが、日系研修員については協会に一任している。

3．コロンビア日系人協会新地会長との面談

新地　学会長の略歴：

昭和13年、川南町生まれ、６４才。昭和32年、18才の時、外務省派遣農業実習生（４年契約）として初めてコロンビアの地を踏み、日本人の農場で現地の人々とともに働き始めました。２年後には120haの土地をまかされるようになります。

翌年にはコロンビア農林省が主催する全国トウモロコシ品評会に出品し、見事一位を獲得しました。そして、４年経って、永住を決意します。

平成２年からコロンビア日系人協会会長。協会の付属機関である農事試験場（有機栽培の研究に力を注いでいる)、診療所、文化交流会館の運営に当たるかたわら、コロンビアと日本との橋渡し的な役割を果たしている。バージェ県知事より功労賞として「クルス・デ・カバジェーロ」勲章を受賞、バージェ県カリ市に奥様のオフェリアさんと長男の稔さん家族とともに暮らす。稔さんは日系人協会が経営する診療所の歯科医師、次男の繁さんは父、学さんの後を継ぎ、農事に従事、三男の優さんは首都ボゴタ市の衛生局に医師として勤務している。

日本人集団移住の沿革：

バージェ平原への日本人集団移住は、1929年（昭和４年）から1935年にかけて２５家族150人が移住したことに始まります。彼らは１５年ほどの間に大型機械化集約農業を確立し、その成果はコロンビア全体の農業の発展に大いに寄与しました。入植７３年を経て、今、コロンビアに暮らす日系人は1200人余り。混血の人が多くなり、そろそろ５世の誕生も聞かれます。

新地さんら日系人移住者が住むコロンビア南西部のバージェ平原は、広大なサトウキビ畑が広がる農業地帯です。コロンビアのサトウキビは世界一の収量を誇り、アメリカ本土やヨーロッパ市場ではコロンビア産が５割を占めています。

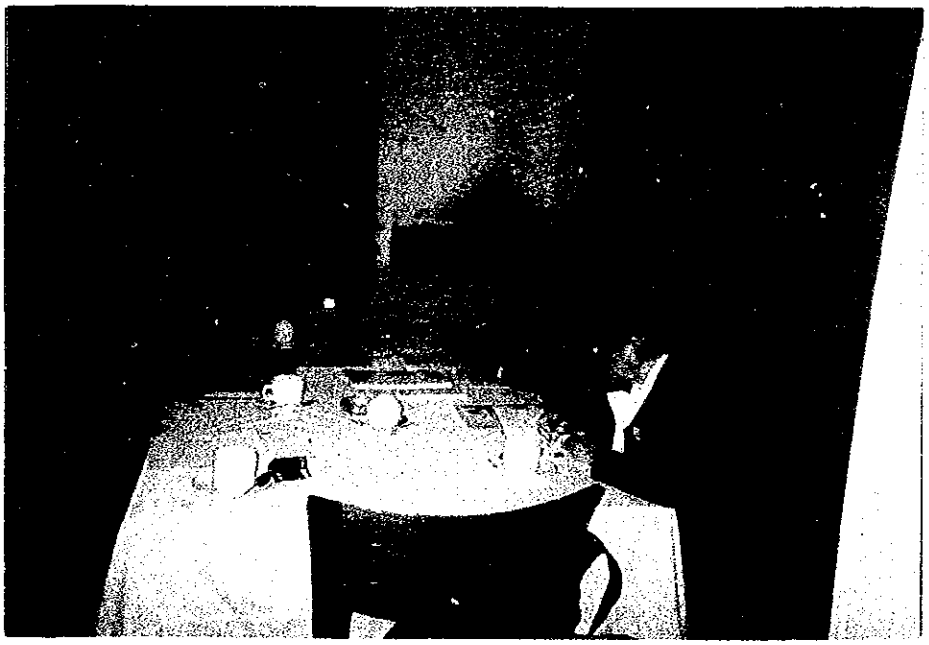
ほかにトウモロコシ、大豆、小豆、コーリャン、綿花、茶など多彩にわたっております。バージェ県の県庁所在地カリ市では、コーヒーや砂糖、綿などの加工産業も順調な発展を続けています。

新地会長との面談：

・協会の付属機関には、日本からの基金や草の根援助によって開設された診療所もあります。2003年までには検査部門にレントゲン設備が整い、コロンビア農民の健康管理体制はさらに充実することになります。
・我々はすっかりコロンビア社会に同化しています。日系人はすべてのコロンビア国民のため、またコロンビアへの恩返しという思いで活動しています。
・当協会は、日系人・非日系人を問わず日本を目指す人たちのコロンビアにおける日本政府を代行する窓口でもあるわけです。
・日系研修員の募集について、協会会員に対して機関誌・会報等で通知している。
・非会員に対してはこれといった通知は行っていない。
・総体的に日本語教師の評価は低い。

柴田富士子（７０才）校長との面談

・柴田校長は1985年に日本語教師研修（３カ月コース）研修員で来日、帰国後もカリ市のコロンビア日系人協会付属日本語学校の教師を勤め、現在も校長職で元気に活躍されている。
・コロンビアの日系人社会は戦争のため、約１５年間、日本語環境から遠ざけられたため、この間に生まれた日系２世には、日本語が話せない人が多い。
・そこでコロンビア日系人協会は３６年前に土曜日学校を開校し、今日まで日本語教育に取り組んできました。
・日本語学校は現在、日本コロンビア交流会館として日本語をはじめ、様々な日本の文化を学習する拠点となっています。
・施設は日系人だけでなく広くコロンビアの人々に開放され、５才から１５才までの子供達のコースは土曜日に、６０才までの成人コースは、ほぼ毎日開講され、あわせて１２０人が日本語を学んでいます。
・非日系人も日本語教育に熱心で、日本への関心は非常に高い。茶道、生け花、盆栽、柔道、剣道、あるいは折り紙といった日本の伝統的な文化に大変興味を持っていますので、語学だけでなく、月に一度はそういった文化講座を開いています。
・日系人の日本語教師は少ない。
・日本語能力試験３級以上を持っている日系人はほとんどいない。ヒアリングは何とか理解できる。



コロンビア日系人協会新地会長とコロンビア日系人協会付属
日本語学校柴田富士子校長との面談

4．帰国日系研修員との面談

森光　カタリーナ（H.9、日本語専修）

徳永　正雄（1992 年、日本語学校生徒研修）

ア．森光　カタリーナ

・本日の飛行機でカリからボゴタに到着、今夜の夕食懇談会に出席して明日のお昼のフライトでカリに戻る。

・日本語専修コースについて、最初は日本語の先生の勉強だと思った。日本に行くまで「はい、いいえ」以外、日本語は全然話せなかった。

・研修を終えて、少し日本語が話せるようになった。

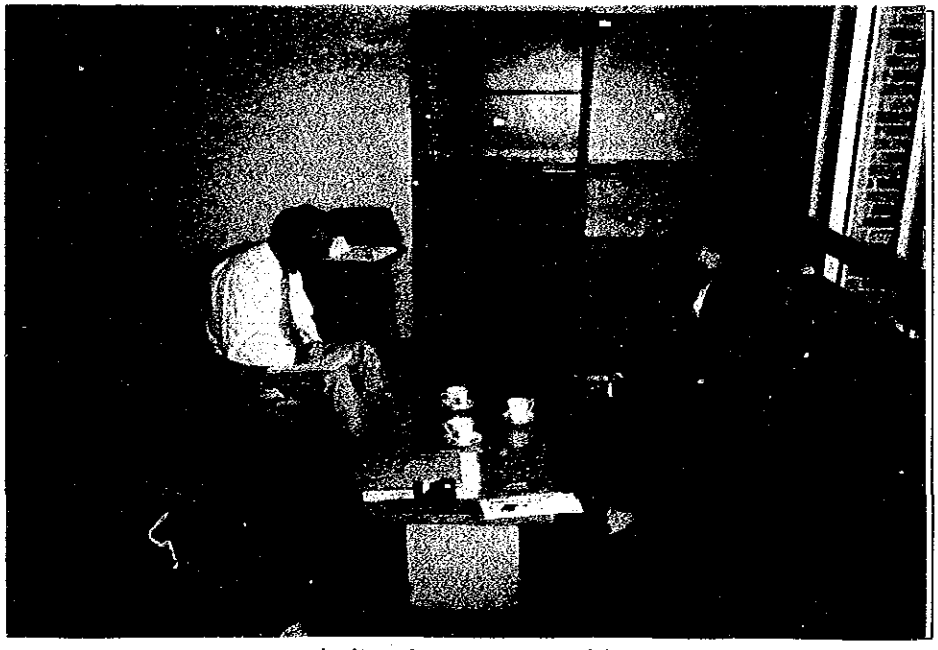
・帰国後、日本語学校の隣の図書館で働いています。また、日本語学校の教師のお手伝いもしています。

・母親の恵子（H7、日本語教師（３カ月）コース）はカリ市の付属日本語学校で教師を勤めている。

・母親に応用コースを薦めたが、教師の数が足りなくて鈴木日系社会青年ボランティアにも過重がかかっているので、とても３カ月を留守にすることはできない。

・親子で日本語教師をやりたくて、今回の基礎１コース（合格通知済み）を応募した。

・将来的には幼児教育を希望している。



森光　カタリーナ　帰国研修員

イ．徳永　正雄

・徳永君は余り日本語が話せないので、村松職員が通訳した。
・生徒研修について、日本に行くのが夢だったから、大変満足している。
・カリの日系人社会の中で一番問題なのは、日本語と日本文化が失われている。
・将来、電子工学を志望しているので、大学卒業後は留学生等でＪＩＣＡ研修員に参加したい。私のレベルでは日本の大学の授業は無理だと思うので、その前に日本語をもっと勉強したい。また、日本の文化の習得を失いかけたので、もう一度日本の文化を習得するため、機会があれば、是非とも行きたい。
・日本コロンビア・アリアンサの日本語学校で１４才から日本語を習った。両親は日本語を話さない。カリの２世の人たちも余り日本語を話さない。
・日本語を話せない訳は、コロンビア政府が強制的に一時期、日本語禁止令を布いたこと。
・日本政府にも見捨てられた意識が強く、名前も日本名を抹消した経緯あり。
・帰国後も同じ生徒研修員と今も交流を続けている。２年前にメキシコに訪問し、生徒研修員の家で寝泊まりし、楽しい日々を過ごした。
・コロンビアの帰国日本語学校生徒研修員は、全員青年部に所属しているので今でも仲間達と交流を深めている。

写真左が徳永　正雄　帰国研修員

帰国日本語学校生徒研修員一覧表

年度	氏　　名	年令	住　　所	親権者名	現　　職
1990	伊藤　かずこ			伊藤　一秀	1994年飛行機事故死
1991	矢部　エリカ	２４	Cali,Valle	矢部　金作	日系研修員で訪日中
1992	徳永　正雄	２３	Calle 34 No.3n-129 apto 301 Cali,Valle	徳永　正人	大学助手
1993	原沢　宏介	２３	Cali,Valle	原沢　九治	天理大学留学
1994	チャベス　政泉	２２	Cali,Valle	渡部　良子	大学４年生
1995	田中　フェリペ	２２	Avenida 2Norte,No.3n-69, Cali,Colombia	田中ｶﾙﾛｽ ｱﾙﾏﾝ	大学２年生
1996	徳永　リカルド	２１	Calle 34 No.3n-129 apto 301 Cali,Valle	徳永　正人	大学３年生
1997	森光　小百合	１９	Avenida 5A Norte,No.23n-57, Cali,Valle	森光　勝利	大学１年生
1998	田中　政幸	１９	Avenida 2Norte,No.3n-69, Cali,Colombia	田中ｶﾙﾛｽ ｱﾙﾏﾝ	大学２年生
1999	渡辺　幸子	１８	Carrera-56 No.5-186 Cali,Valle	渡辺　一郎	学生
2000	志波　秀崇	１７	Carrera-83B No.14A-69 Cali,Valle	志波　明美	学生
2001	布施　まゆみ	１５	Avenida 4 Norte,No.25n-63, Cali,Valle	布施　順次	学生

サンパウロ事務所管内

1．在サンパウロ日本国総領事館

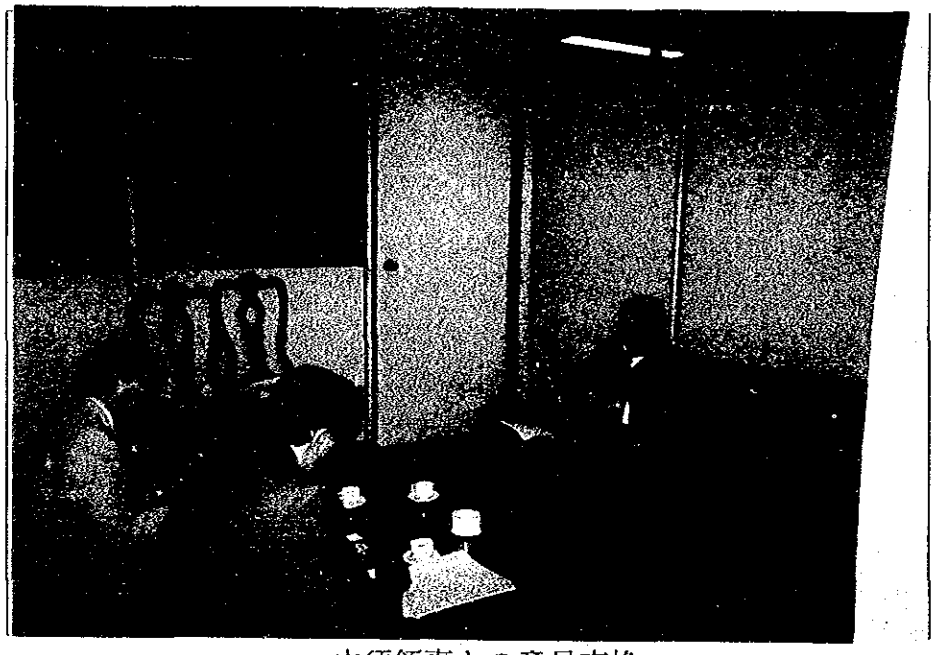
・日系研修員の募集・選考等については、これまでＪＩＣＡに全て任せている。

・ブラジルは、移住者で成り立っていると言って良いほど各国からの移住者が多く、在サンパウロ日系３団体（ブラジル日本文化協会、サンパウロ日伯援護協会、ブラジル日本都道府県県人会連合会）とは、記念行事等の機会など折に触れて意見交換している。

・日系人子女に対し、母国語としての日本語を学ばせる必要性、メリットがないと学習者は増えない。例えば、日本の企業に就職できるとかのメリットがあれば、日本語を外国語として学ばせるという位置付けでも良いのではないか。

・日系研修制度は、移住者を送出した日本政府の責任として引き続き継続すべきである。

・2008 年にはブラジル移住 100 周年を迎えることとなり、すでに「100 周年記念行事準備委員会」が発足しているところ、大きなプロジェクトができる絶好の機会である。



中須領事との意見交換

2．サンパウロ事務所

・管内における日系研修の募集から選考までを各日系団体に業務委託の上、実施しているが、委託先のブラジル日本文化協会については、日系担当者が年配かつポルトガル語が理解できないため、応募者からの問い合わせについて対応できない状況である。また、ＪＩＣＡともチャンネルが合わない。現状では機能していないと思われるので、早急に改善を図る必要あり。場合によっては、業務委託を中

止し、ＪＩＣＡ直営方式も考えている。

・当事務所管轄地域内には、実に 100 万人を超す日系移住者及びその子孫が居住していると言われており、移住者子弟に対する日本語教育や本邦研修等、幅広いニーズを有している。

・日系社会支援事業について、毎年、百名弱の日系研修員受入や営農安定対策として６０名前後の伯国在住専門家派遣及び先進地農業研修員を受入れている。

・今年度新たに「日系研修制度」の募集ＰＲの一環としてポ語のポスター（横 55cm 縦 75cm）を作成し関係先に配賦した。この効果は大きく、ＰＲ大と確信している。因に、本ポスターはアルゼンティン事務所が作成したポスターを参考に作成した。

・次は、日系人支援事業を紹介するパンフレット（ポルトガル語）を作成する予定である。

・中堅者（３２才～４０才）育成の研修コースが少ない。

・帰国研修員のフォローアップに近い見直し調査を専門家に来ていただきコースの見直しを図って欲しい。

・特に、日本語教師研修コースの見直しについては、日本語普及センターが行っている養成講座と汎米日本語教師研修、国際交流基金の日本語教師コースなど色々あるので、中味をきちっと整理した上で見直しを図って欲しい。

３．日系人団体事務局長・同窓会関係者との意見交換会

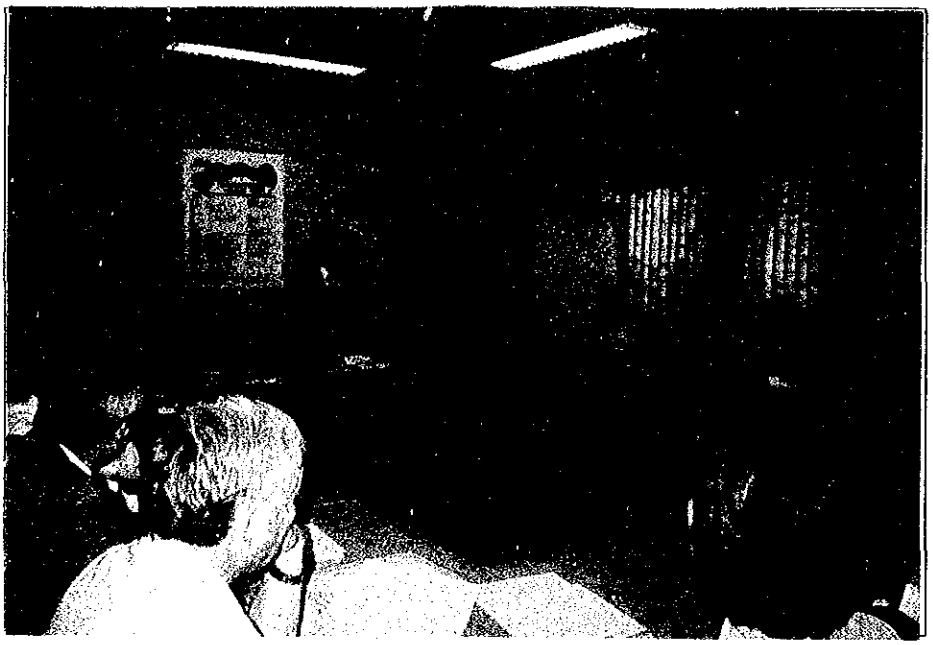
場　所：ＪＩＣＡ事務所　会議室

日　時：３月１８日（月）午後２時～４時

出席者：

1)	高橋　伸雄	ブラジル日本文化協会	JICA 委託業務委員長
2)	畑　　俊男	ブラジル日本文化協会	研修担当
3)	山下　忠男	サンパウロ日伯援護協会	事務局長
4)	佐藤　直	日系研究交流型／SBPN	会長
5)	立花　敏市	日系研究者／ABJICA	会長
6)	渡辺　イイセイ	日系研究交流型	
7)	上原　コウケイ	日伯文化連盟	会長
8)	丹羽　義和	日本語普及センター	事務局長
9)	西巻　クララ	同　　上	事務局員
10)	大泉　みどり	同　　上	事務局員
11)	前川　さおり	同　　上	事務局員
12)	小松　雹玄	JICA サンパウロ事務所	所長
13)	松本　明博	同　　上	業務次長

14）佐々木　弘一　　同　　上　　担当職員
15）村上　ヴィセンテ　同　　上　　副担当職員
16）寺尾　マルガリーダ　同　　上　　副担当職員



ＪＩＣＡサンパウロ事務所会議室において

意見交換会内容：

日系研修の各実施機関担当者と代表者が一同に介し、佐々木職員の司会により、会議が進行した。

はじめに、小松所長より調査団員の紹介と調査日程及び本日の意見交換会の趣旨について説明された。

次に、調査団側より調査の趣旨（配布資料「日系研修業務で留意していただきたいこと」）と日系研修員制度の見直し、あるいは、日系研修員受入に係る問題点などについて説明し、質疑応答に入った。

【質疑応答内容】

佐藤：応募書類は日本語で書かれておりますが、漢字を読める応募者は少ないので、できればローマ字またはひらがな書きにして欲しい。

金木：今回出張先でも、同じような要望がありましたので、募集要項等も含め漢字の上にふり仮名をつける等、持ち帰り検討したいと思います。

立花：ホームページに入れて見たら。

佐々木：サンパウロからＪＩＣＡのホームページにアクセス出来ない。プログラムの問題等、何かトラブルがあると思われる。

高橋：募集要項の応募資格に記載されている日本語能力と日本語プレースメント・テスト、この２点について確認していただきたい。先ず、日本語プレースメント・テ

ストについて、従来からこのテストは現地で採点しなくて良いと言われて来ていますが、

金木：正にその通りです。採点は海外移住センターで行うので、添削せずに答案用紙をセンターに送って欲しい。

高橋：次に、日本語能力について、募集要項の中に本邦における日本語補完研修を必要とするか、これは本人と第二次選考試験の際に、我々選考委員側が必要か否かを書くことになっていたのです。しかし、日本語プレースメント・テストの採点結果が判らないと日本語補完研修が必要かどうか判断できないし、推薦書類にも書けないです。日本語の面接テストだけでは、全く判らないのです。例えば、この人は日本語を話せるけど読み書きが出来ないから、実際の研修に差し障りが出てくるのではないかというような懸念を私共は抱いていたのです。

この辺はどういうふうにお考えですか。

もうひとつ、推薦書に何もコメントを付せずに応募者すべて日系人協会へ送付していいのか。日本語テストの結果が判らないと推薦する側にジレンマがある。

金木：持ち帰り検討させていただきます。

小松：日本語プレースメント・テストを現地で採点してしまうと改ざんされる恐れがあるのです。テストの目的は、来日後の３カ月間の日本語補完研修を受講する必要があるかどうかを見るためで、これで合否が決定づけられるわけではありませんので、手を加えず海外移住センターに送ってくださいと、こういう意味だと思います。

金木：その通りです。

畑　：従来は、応募者全員の書類をＪＩＣＡに送付し、ＪＩＣＡが審査を行っていたので問題なかった。平成１３年度の状況を説明しますと、応募者７０名のうち申込書類が提出された人は５０名でした。この５０名に対し面接試験を行った結果、推薦者数は２５名前後でした。最近の応募者の傾向として日系３世の人が多い。また、本来の研修目的よりも日本語に重きを置く研修員が目に付く、中には、日本語が全然だめで、箸にも棒にもならないような人がいても、それを無視して５０名の応募書類をすべてＪＩＣＡに送付していいか。

金木：これはサンパウロ事務所と協議して欲しい。日系研修員として適格者であるか否かを最終的に審査・推薦するのは、委託先の各日系団体ではなくサンパウロ事務所長の推薦を得ることが前提であり推薦書が必要です。

小松：高橋さんからご質問あったのは、２級レベルの日本語が望ましいと言っているけど、３級に達しない人も受け入れております。２級レベル以下の人について、どう判断したらいいか、そこのバランスも考慮しなければいけません。

もうひとつ、潜在的能力があって、３カ月間の日本語補完研修を受講することによって充分研修をやれる能力のある人がいるわけです。そこの捕らえ方の問題

だと思うのです。例えば、日本語が弱くても、受入先の状況によっては、研修が英語等で行われることがあります。

つまり、日本語一番ではなく、研修の中身、やる気、あるいは、貢献度といったことを加味しながら選考していただきたい。

高橋：今まで、そういう風にやってきた。

畑　：日常会話程度できないと日本での生活で、本人が苦しむことになると思います。

佐々木：ひとつの例を申し上げますと、今回の技術研修員の中で日本語プレースメント・テストの結果では、３カ月間の日本語補完研修を受講しなければいけないと決定していたのですが、受入先の九州大学の先生が、日本語の勉強よりも技術者に研修する期間として、５月からはどうしても参加しなければいけないと、だから、逆に日本語補完研修を取り止めて、自分達は英語でみんなやるから早く来て欲しいというケースもあるので、密に受入機関とお話してもらうということではないかと思います。

山下：これまで、医療分野応募者の推薦条件として帰国後、当協会が運営する医療機関あるいは、巡回診療業務に最低１年間の勤務を義務付けていたが、ここ数年の間医者とか看護婦は、研修に行ったきりで帰って来ないのが現状である。

これからは、日系社会にひ益するような福祉分野を主に、年に１名か２名程、短期研修員で受け入れて欲しい。

畑　：日系人の高齢化社会に向けて、長期の栄養士・老人介護もお願いします。

佐藤：福祉分野のコースも設けて欲しい。また、国家試験取得のため、ドクター・コースの２年間、プラス２年間の延長をお願いする。

金木：現行制度では、医学コースの技術研修期間は１カ年であるが、臨床修練制度の許可を得た研修員、およびＪＩＣＡが特別に認めた場合は、１ヵ年の延長を認めている。その場合、最長の受入期間は日本語補完研修を含めて最長２ヵ年までですから、プラス２年間の延長は不可能かと思います。

丹羽：他の団体の方からも感じたのですけど、期間について検討して欲しい。

町田：県費留学生の予算が毎年減って来ている。移住 100 周年までになくなってしまう危惧を抱いています。

大庭：県費留学生については、平成１６年度中には各都道府県、地方自治体の一般財源化の見直し等を検討している。

司会：閉会の辞。

４．日本語普及センターとの意見交換

前項「日系人団体事務局長及び日系研修員同窓会関係者との意見交換会を終了した後、日本語普及センターに対し、ここ数年、集団・長期日本語教師研修コースの推薦

者が少なくなっている状況を踏まえ、ブラジル日系人社会の日本語教師研修希望者のニーズ調査及び新規研修コース・ニーズ発掘等について協議を行った。

同センター丹羽事務局長から日本語教育環境の変化や集団コースの課題、ニーズ調査等について、調査団に対し以下のとおり検討方、要望があった。

1）．集団コースの課題

ア．ここ２～３年の日本語教育環境の変化

・日本語教育の広がりに伴い、学習者の年令、世代、ニーズが多様化している上、効率的に日本語を教える必要性が高まっている。

・ひとつの例として、公教育の部分でブラジルの学習者は 16 千人余りと言われている。その内の 13 千人が日系の日本語学校で勉強している。

・５年前の調査では、語学学校、公教育機関（赤間学園他）で学習する層は 120 名、今や 2,300 名に増えている。

・これに従い、運営側、学習者側から教師に対して、何らかの形で資質を証明するものが要求されるようになっている。

・特に、公教育機関あるいは語学学校（主に英語学校）の学習者が増加し、教師資格（ブラジルにおける教育免状を有する）を持たない教師が将来に不安を抱く傾向が強まっている。

イ．基礎Ⅱコース課題

・研修希望者はあるが、基礎Ⅱコースにおいては、該当者が日本語学校の中堅であり、長期間休めない状態にある。

・また、女性の教師が大多数のため、育児期間と重なり、家庭を留守にできない状

・態である。

・育児を終えた 40 代後半から日本語教師となる層と若いときから日本語教師となっている層を比べたとき、日本語能力に差はなくても、経験年数に違いがあり、研修内容に対する評価が異なるケースが見られる。

・さらに、育児を終えたとはいえ、半年間、家庭を留守にするのが難しい場合が多い。

ウ．応用コース課題

・ベテランの域に達している再研修層、２世層、日本に行き初めて日本語教育を体系的に学習する層（地域の文協に多い）の３つの
グループに分かれている。

・再研修層は、学校の中心的存在であり、３カ月休暇を取る余裕のないものが多い。

・上記のように研修に参加するグループが３つの層に分かれているので、目的が充

分果たせないで研修を終えるケースも見られる。

以上の課題を踏まえて、日本語普及センターとしては、現在の研修をより現状に即した形態にするため、本格的に調査研究する必要性を感じている。

2）．ニーズ調査等について

ア．若手教師を長期的に育成するコース

現行の基礎Ⅰ、基礎Ⅱ、応用と３段階に分けているステップを２段階あるいは、短期間（２～３カ月）の３段階とし、現場経験を踏まえて、若手教師を育成する。

イ．比較的経験の浅い４０代後半～５０代を対象としたコース（２世コース）

これからの層は、日本語教育を体系的に学ぶ機会がないまま教壇に立っているものが多いが、日本語教育に対する熱意は強く、前年までの基礎Ⅱコース（年令 40 才以下）参加者 34 名中、40 才以上が 5 名含まれている。この５名については、子育てが終わってから、本人の強い意志で応募相談があったものです。

また、応用コース参加者の中にもこのコースが適当と思われる者が多い。

さらに、これらの層の多くがブラジル生まれであり、訪日経験がないものも多い。

ウ．指導者養成コース：１カ月位で対応

現在の応用コースの再研修グループに多いが、学校で中心的存在の教師を対象に後継者指導あるいは、教材作成など、目的を絞った研修を実施する。これに加え、先の日本語教育環境の変化に対応し、貴重な研修機会をより効果的にするために次の必要性を感じている。

①．修了証の価値付け

現役日本語教師のレベル証明のひとつとして、修了証の価値を高める。

例：・教科内容を詳しく記載したカリキュラム表を証書に添付する。

・非常にレベルが高いが、日本語教育能力検定試験合格を目的とする。

・日本語教師養成の基準といわれる教師養成 420 時間の資格を付与する。

②．修了試験の実施

上記の形で修了証明に価値付けをするため、終了時にもれなく、証明を与えるのではなく、試験合格、レポート審査などを実施し、修了生のレベルの統一を図る。

③．現地教師養成あるいは研修との連携

・地域差などがあるので、現実には各種の問題が予想されるが、現地において、研修員のレベルをある程度統一することができれば、日本での研修がより効果的になる。

・そのためには、現地の教師養成、研修会などとの教科内容を分担し、カリキュラムなどが重複しないようにする必要が生じる。

・さらに発展すれば、現地において日本語能力および基本的な専門知識を身に付けた後、日本で高度な技術を得て、現地における教育実習を終えて、修了するコースも可能になると考えている。

［参考］：現在、ブラジルでは日本関係機関、日系機関、公教育機関（大学・中高校）、商工会議所が日本語協議会を開催し、日本語教育の種々の問題解決に取り組んでいる。本年３月１４日に第１回会議が各分科会を経て、開催されたが、ここで大きく扱われたのが、教師のレベルアップと資格付与の問題で、資格を有しない教師に対して、協議会でレベル認定ができるよう。検討を続けていくこととなっている。

３）．実態調査

・教師側の意識：何のために日本語を教えているのか、人間教育・文化理解が 50％
・学ぶ側の意識：文化的関心・言葉に関する関心が 40％
・先生の意識と学習者の意識にギャップがある。今後の教師研修の方向付けとなる。
・学習者の大卒は 70％、日本語教師の大卒は 50％弱で、学習者は物足りないと感じている。
・１世教師（50 才以上が約半分）が約 50％
・１世層が入れ代わりの時期に来ているが、２世層に世代交代への移行が難しい。
・次の世代には、より高度な技術を習得させる必要がある。
・日本語教育からはずれるが、作文指導・毛筆指導のニーズがある。

４）．今後の取り組みについて

日本語教育の発展には、教師の資質向上が不可欠であり、そのためには日本における研修は大変重要です。現在、応用コースの応募者が少ない現実において、せっかくの研修が定員に満たないという状態となっていますが、現地としては、本研修をよりニーズに適った形態にし、教師のレベルアップを図っていきたいと考えています。なかんずく、本当のプロを養成するコースが必要と考えています。

また、ＪＩＣＡが実施する現地調査など必要なことがあれば、日本語普及センターは協力させていただきたいと考えています。

５．研究者帰国日系研修員活動現場視察

サンパウロ市内の赤間学園内において、愛知ガンセンターとの共同研究のため、伊藤・大庭両名の帰国研修員が日系人親子を研究対象に採血を実施している場所を視察した。

本学園の全校生徒数 900 名のうち日系人が占める割合が 90％で、約 800 名の日系人生徒の 300 家族を採血対象者として採血を行っていた。視察当日は 40 家族

1200 名程の採血を行っていた。この後も場所を変えて採血検査を行うが、目標は2000 名の採血検査を行う予定とのこと。

この採血検査はピロル菌の研究のため親と子供を採血検査し、その採血データーの解析結果を見て遺伝性か生活環境等によるものかを研究することが目的。

今日本で流行している胃ガンと胃炎がピロル菌に関係あるのではないかとの学説があり、そのピロル菌も家族遺伝か食生活からくるものか、日本でまだ研究されていないので、日本に先駆けてこちらで研究を進めるとのこと。

ふたりの目標は１万人のデーターを集め、日本と生活環境の違いなど研究する。

ア．伊藤　小百合　ルーシー　３８才（H.12、個別・長期医学研究者）

研修コース名：癌予防の効果的計画策定を目的とした癌における疫学的方法

研修先：愛知県がんセンター研究所

受入期間：2000．4／10～2001．6／29

現　職：サンタクルス病院リサーチセンター

イ．大庭　ミエコ　スエリー　３５才（H.11、個別・長期医学研究者）

研修コース名：大腸ポリーブの制御のケース・スタディにおける Cyp2EJ の多型現象の分析

研修先：浜松医科大学

受入期間：1999．4／12～2000．6／30

現　職：サンタクルス病院リサーチセンター

赤間学園内において、伊藤小百合ルーシー帰国研修員が
採血検査を実施している光景。

サンパウロ事務所管内・視察訪問先

日時：平成１４年３月１６日（土）ＰＭ14：00～

視察先：サンタクルス病院 Orientadora Hospitalar

サンタクルス病院正面玄関前

左から、立花敏市日系研究者会長、ユリ外来受付、平知恵実帰国研修員（看護部長）

金木、大庭、田村陽一郎（JICA 業務調整員）

日時：平成１４年３月１７日（日）PM14：00～15:00

視察先：社会福祉法人　救済会　憩いの園

左が、左近　寿一　第一副会長、右が、日本から派遣されたカトリック系シスター２名

在園者：１１６名（男性４１名、女性７５名）

平均年令：８４．０８歳

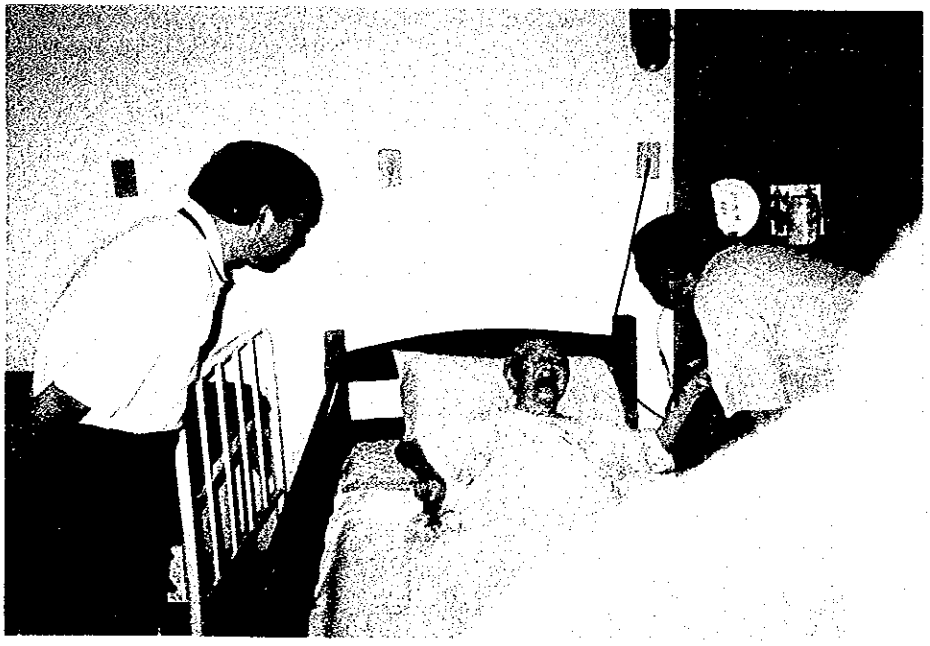
<u>在園者の健康状況</u>

要介護者：６２名

半介護者：２７名

自立者：２７名

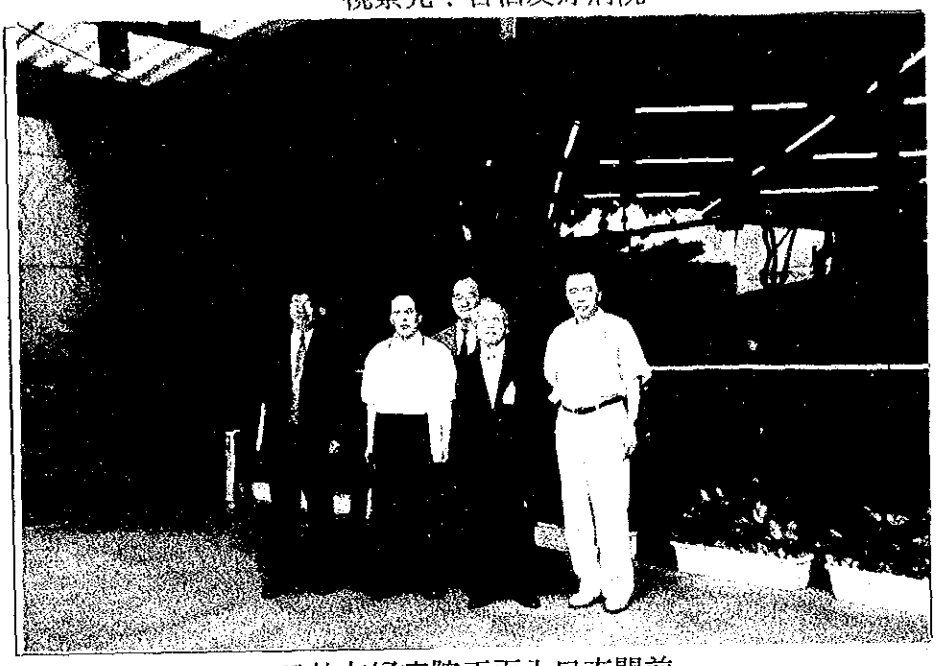
<u>全体の７６％以上がお年寄りに介護が必要となっている。</u>



サンパウロ事務所管内・視察訪問先

日時：平成１４年３月１７日（日）AM09：30～13:30

視察先：日伯友好病院



日伯友好病院正面入口玄関前

左から、村上 JICA 職員、大庭、大久保拓司院長、金木、

後列に具志堅茂信事務局次長（帰国研修員）

サンパウロ事務所管内・社会福祉施設　視察訪問

高齢者問題

日本からのブラジル移住開始後９０余年が経つ今日、ブラジル南伯地域には、実に、100 万人を超す日系移住者及びその子孫が居住しており、そのうち、６５歳以上の日系高齢者がおよそ５万人を超えていると言われております。

日系コロニアは今高齢化社会の入口に差し掛かり、日系移住者の間では、高齢化が急速に進むため老人の福祉を巡る問題が今後一層深刻化するということである。

なかでも、経済発展と社会・家族構造の変化で、高齢者の多くは働き盛りの息子・娘世代と離れて暮らすようになっている。特に、７５歳以上では、心身の衰えから寝たきりや痴呆状態になる人の割合も多くなる。要介護状態になった高齢者の周辺に、世話をする若い肉親がいない場合が多いため、老人介護の社会化が叫ばれている。

サンパウロ援護協会では、日系社会の高齢化に対応して早くから、養護・軽費老人ホームを設立してきたが、今や既存の施設では対応できなくなったため、ＪＩＣＡ（日本政府）の建設費助成（約２億５千万円）により、1998 年度より５カ年計画で特別養護老人ホーム「あけぼの」がスタートし、2002 年の第五期で工事は完成する。

日時：平成１４年３月１７日（日）PM15：05～16:00

視察先：特別養護老人ホーム　あけぼの

左から、竹村事務局長、牧野妙美青年ボランティア（17 回生）、野村会長

建築面積：延べ 2,602 ㎡　建築規模：地上１階建が６棟、一部地上２階建が１棟

入居者定員：52 名　（入居棟　２人部屋　18 室　36 名、個室　16 室　16 名）

調査結果のまとめ

今回の現地調査結果を踏まえ、次のとおり調査団としての所見を述べて総括とする。

○日系研修員制度実施に係る問題点及び所見

1．　日系人社会の世代交代

（1）　今回訪問した各地の日系人社会は、活動の主体が移住者１世から日系２世、３世へと確実に移行していることが認められるが、日系人団体等の各種組織内部において一部、運営責任等の次世代への委譲がスムーズに行われず、組織としての機能が閉塞状態に陥り、必要な情報の徹底がなされていない地域が見受けられる。

（2）　今後、日系研修員制度の効果的実施を図るためには、日系人社会の活性化・情報伝達の円滑化を図る必要があり、このため、日系研修員ＯＢ組織（同窓会）を積極的に組織して活動の拠点とするなど、日系人社会全体の若返りを図る必要がある。

（3）　さらに、各地の日系人団体等の役員や幹部職員が２世～３世の層へと委譲する時期に来ているので、これらの若手幹部に対して日本の団体運営のシステムやパソコンによる情報処理技術の習得等を研修し、日系人社会に裨益されるような日系団体組織の活性化を高めることが急務とされている。このようなニーズに対応する研修コースの見直しを図る必要がある。

2．　日本語の継承

（1）日系人社会における世代交代が進むについて、若年世代の居住国への同化が進みつつある中で、日本語能力が低下するのはやむを得ないが、日本人との血縁関係を有し、日本文化を後世に継承するための手段として、「日本語」という言葉を学び・伝承することは、日系人としての立場を再確認する意味において重要である。

（2）日系人社会において、自分達の力で次世代に日本語を継承したいとする努力に対し、側面から支援するため、現地日系人社会の意見を斟酌し、可能な限り柔軟な運用ができるよう検討すべきである。

（3）日本語を外国語として位置付け、自己のバイリンガルな価値を高めるために習得することも日本語能力の絶対的低下を防止する上で、有効な方

策である。

（4）日系社会の日本語教育の一層の発展及び改善に資することを目的として各地の日本語学校に勤務する者を日本語教師研修３コースを集団研修として実施しているが、最近、予算定員に満たない状況が続いている。

ひとつの理由として、各コース応募の資格要件を具備しているものが大幅に減少したこと。二つ目は、日本語教師の研修希望者が減少したものではなく、本人の家庭（育児）問題や職場（代替教師）問題等を抱えているため、研修を断念せざるを得ないという実情であること。

（5）現行の日系研修制度は、基礎Ⅰ、基礎Ⅱ、応用の３段階に分かれているが、基礎Ⅱから応用までのステップが長過ぎるので、その間に基礎Ⅲのコースを新たに入れるか、あるいは、応用をふたつに分類し、かつ研修期間の短縮（１カ月以内）を図るなど、現行の３コースそのものを見直し、現地の日本語教師のニーズに適う柔軟なコースを再設定していく時期に来ていると思われる。

３．　高齢者対策

（1）　移住者１世等の高齢化は、日系人社会の直面する大きな問題となっており、これら高齢者の介護・介助を行う人材を育成する必要がある。大規模な日系人社会が構築されているブラジル・サンパウロ市では、日系人のための医療施設等も比較的充実しているが、日本語しか理解しない者の多い移住者１世等の治療・介護を行う医師・看護婦・カウンセラーなど日本語で対応できるスタッフを育成する上で、日系研修員制度は重要な役割を果たし得る。

（2）　研修派遣期間中の職場の穴埋めをいかにするかなど種々の制約も生ずるが、一時的に勤務体制の編成替えをするなどの工夫をして社会福祉コース・医学コースの研修を受け、より質の高い、充実した医療・介護を行えるよう関係者のさらなる努力を要請したい。

４．　日系人団体の在り方

日系人団体の会員数の多寡や、管轄地域の広域により団体運営の在り方も差異を生ずると思われるが、団体が名ばかりの存在となっていると認められる所もある。会員の正確な現況（世帯数・家族数・連絡方法・本邦へ

の出稼ぎ者の有無等）を掌握し、日系研修員募集などの情報を迅速かつ的確に提供できるような体制づくりに務めることが必要である。

また、日系研修員募集等の必要な情報が全ての会員に周知されないことにより不利益を被る者のないよう公正に運営されるべきことは言うまでもない。

5．　ＪＩＣＡ在外事務所、在外公館の適正な指導

（1）　日系研修の各コースの申請には、在外事務所長あるいは在外公館長の推薦が必要とされており、在外事務所等の日系人個人あるいは日系人団体に対する直接・間接の指導の在り方が本制度の十分な活用を図る上で大きな影響を与えることになる。

（2）　日系研修員に係る募集要項等の案内や通年ポスターの作成配布、日系研修研修機関一覧などの最新情報を日系人社会に迅速かつ的確に提供するため、インターネットの速やかな導入が求められる。在外事務所等が開設したホームページにアクセスすることで、申請人たる日系人の方々、在外事務所、在外公館が常に情報を共有できるよう整備することが、新たな研修希望者を発掘し、本制度を活性化することになると考える。

付　属　資　料

日本語普及センター　事務局作成

世界の日本語学習者と日本語能力試験受験者・・・・・・・・・・・・１頁

ブラジルにおける日本語学習者の推移　**CELJ**　事務局作成・・・・・１頁

2000 年　日本語学校調査　日本語普及センター調査研究部・・・・・・１１頁

2001 年度　日本語学習者の意識調査「成人学習者のプロフィール」・・９頁

22-09-00

世界の日本語学習者と日本語能力試験受験者

	初等・中等	高等	その他	合計	日本語能力試験受験者	
韓国	731.416	148.444	68.244	948.104	44.316	4.67%
オーストラリア	296.170	9.593	1.997	307.760	737	0.24%
中国	116.682	95.658	33.523	245.863	43.262	17.60%
台湾	31.912	76.917	53.038	161.872	19.424	11.20%
アメリカ	74.749	31.159	7.069	112.977	573	0.51%
インドネシア	35.410	11.110	7.496	54.016	3.733	6.91%
ニュージーランド	39.237	2.200	70	41.507	615	1.48%
タイ	7.694	24.218	7.910	39.822	3.075	7.72%
カナダ	12.815	5.293	3.676	21.784	512	2.35%
ブラジル	2. 299	785	13. 594	16. 678	2. 827	16. 95%
香港	0	2.193	14.453	16.646		
イギリス	6.591	3.464	4.396	14.451	408	2.82%
フランス	3.068	7.165	1.885	12.118	560	4.62%
ドイツ	1.535	5.751	3.739	11.025	434	3.94%
ベトナム	18	2.353	7.735	10.106	518	5.13%
メキシコ	1.200	1.420	1.479	4.099	632	15.40%
ペルー	2.193	17	929	3.139	309	9.84%
アルゼンチン	349	136	1.310	1.795	433	24.12%
パラグアイ	716	0	975	1.691	739	43.70%
ボリビア	0	0	517	517	0	0

備考：以下の資料から抜粋した。

①日本語学習者数は「国際交流基金 日本語国際センター」発行の「海外の日本語教育の現状 ＝日本語教育機関調査・ 1998年」

②日本語能力試験受験者は 「財団法人 日本国際教育協会、国際交流基金」発行の「日本語能力試験 結果の概要 1999（平成11年度）」

③初等、中等、高等教育機関を除く、その他の教育機関の大多数が日系人の運営する日本語学校である。また、初等、中等教育機関で学ぶ学習者の約半数が私立校で学び、これらの経営者は日系人である。

日本語普及センター

事務局

22-09-00

ブラジルにおける日本語学習者の推移

年	日本語学習者	日本語学校数	日本語教師数
1965 年	22.000 人	３５０校	４５０名
1994 年	18.782 人	３１９校	７９０名
1998 年	16.678 人	３０４校	８７２名

1998 年度の詳細

初等・中等教育			高等教育			その他			合計		
機関	教師	学習者	機関	教師	学習者	機関	教師	学習者	機関	教師	学習者
17	43	2.299	8	33	785	279	796	13.594	304	872	16.678

注１） 1965 年、1994 年の調査時点では、ブラジルの州立校（サンパウロ州、パラナ州）における日本語教育が始まっていなかったので、日本語学習者のほとんどが日本人会の経営する日本語学校の学習者であった。

注２） 1995 年より本格的にブラジルの州立校（サンパウロ州、パラナ州）における日本語教育が始まり、さらに、公教育機関の私立校でも日本語教育が導入されるようになり、1998 年度の調査では、これらの機関の学習者が、2,299 名となっている。

注３） したがって、日系人の団体（移住者）が経営する日本語学校の学習者は、94 年から 98 年にかけて大幅に減少している。

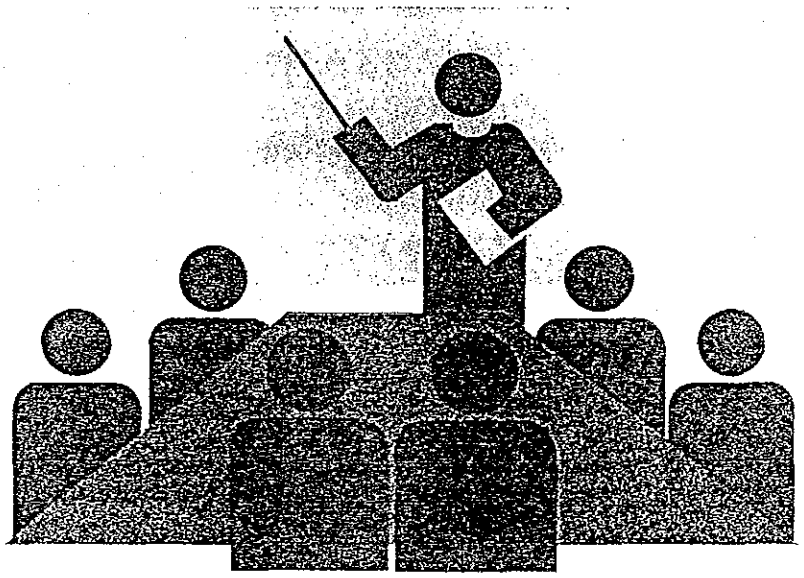
注４） また、学習者の層も 98 年の調査では、3000 人くらいが非日系の人となっている。

注５） 98 年においては、学習者、学校数が 94 年に比べて、減少しているのに反して、教師数が増加しているのは、各学校単位の学習者は、減少したにもかかわらず、学習者のレベル（従来は、日本語をある程度、家庭内で覚えて、学校に入学していた）が低下したため、教師一人が抱えられる学習者が減少したからと思われる。

CELJ　事務局作成

2000年

日本語学校調査



日本語普及センター

調査研究部

調査目的

当日本語普及センターは昨年（1999 年）日本語学校要覧表を作成した。日本語学校、サンパウロ州外 121 校、サンパウロ州 269 校計 390 校を包括する、ブラジル全域にわたる全国的な規模のものである。しかし、学校の所在地や学習者数や授業形式などは個々の学校単位ではわかるのだが、全体としてどういう傾向にあるのか、学習者は何世が多いのか、教師の年齢層は何十代が一番多いのかなどは、資料を単に羅列してあるだけなので把握できないきらいがある。

そこで私たち調査部はこれを総括し、分析することで現在ある日本語学校の実状を把握し、その全体像をもって今後の日本語教育の将来に対する展望が可能になるのではないかと考えたものである。

調査方法

前回（1999）の要覧表の住所をもとに、変更のあった箇所だけ書き換えてもらうように、要覧表のコピーを 7 月に 269 通送付。ついで前回の記載漏れの学校を調査するために、ポルトガル語訳をつけた新規の用紙を 8 月に 110 通、総計で 379 通を送付した。

これを 10 月末までに回収する予定であったが、思うにまかせず 11 月末日まで待った。回収できたのは 204 通。うち住所不定で返送されたものが 14 通、回答のダブっていたものが 9 通あった。これは地方の連合会が一括送付しているのに、さらに個々の学校が送付してきたところから結果として 2 度送りが起こったためである。したがって、調査の対象となったのは 181 校（47,75%）である。調査については回答率が 40%以上あれば有意性が認められるということなので、これをまとめることにした。

調査対象地区

調査用紙の回答を寄せてくれた１８１校を、地域別に区分すると、サンパウロ市内および近郊地区が 43·5%、サンパウロ州内 13·5%、パラナ州 20·0%、マット・グロッソ 4·0%、リオ 3·9%、ミナス 3·0%、バイア 3·0%、サンタ・カタリナ 3·0%、パラ 1·7%、アマゾン 1·7%、ブラジリア 1·7%、リオ・グ・スール 1·0%の比率であった。サンパウロ市内の回収率が一番よいのは、やはり近距離であり、教師本人のセンターに対する思い入れが大きいことがあげられるかもしれない。（これをグラフ化したものが 4 ページの図である）

アンケート用紙

学校名 / NOME DA ESCOLA		
代表者 / REPRESENTANTE	地区名 / NOME DA REGIÃO	
住所 / ENDEREÇO		
市 / CIDADE	州 / ESTADO	郵便番号 / CEP
電話 / TEL	FAX	電子メール / E-MAIL
郵便物宛先 / ENDEREÇO PARA CORRESPONDÊNCIA		
運営団体 / ENTIDADE		
代表者名/NOME DO REPRESENTANTE	代表者電話/TEL. DO REPRESENTANTE	代表者 FAX / FAX DO REPRESENT.

学校の歴史及び教育目標 / HISTÓRICO DA ESCOLA E OBJETIVO DA EDUCAÇÃO
年間の主な行事 / ATIVIDADES ANUAIS
主な教育内容（特色あるもの） / CONTEÚDO DO CURRÍCULO

生徒総数 Nº DE ALUNO	7歳未満 MENOS DE 7 ANOS	7～10歳 7~10 ANOS	11～15歳 11~15 ANOS	15歳以上 ACIMA DE 15 ANOS	日系 DESCEN-DENTE	混血 MESTIÇO	非日系/NÃO DESCEN-DENTE

年間授業時間 / CARGA HORÁRIA ANUAL	授業時間/1日 / CARGA HORÁRIA/DIA	授業日数/週 / Nº DE AULA /SEMANA	学校授業日 / DIAS DE AULA/SEMANA

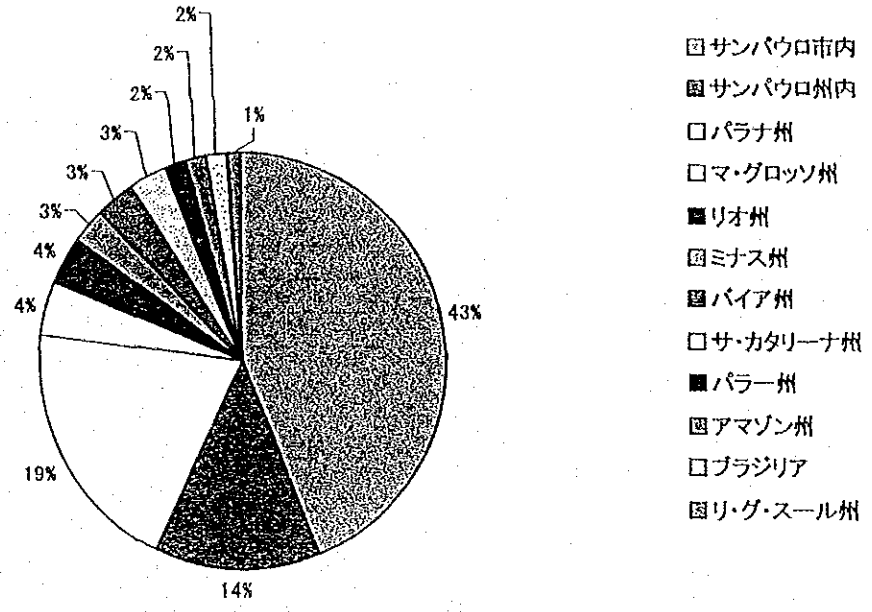
学校が所在する地域の状況（日系社会の世帯数、他の日語校の有無等）/SITUAÇÃO DA REGIÃO ONDE ESTÁ INSTALADO A ESCOLA (Nº DE FAMÍLIA DE JAPONESES, EXISTÊNCIA DE OUTRA ESCOLA JAPONESA NA REGIÃO, ETC.)

教員 (校長 . 教頭 . 教諭 . 時間講師 . 助手 . 青年ボランテイア等) CARGO (DIRETOR, COORDENADOR, PROFESSOR, HORISTA, AJUDANTE, VOLUNTÁRIO,ETC.)					
職名 CARGO	氏名 NOME	年齢 IDADE	世代（一世） GERAÇÃO	教師歴 TEMPO DE SERVIÇO	担当クラス CLASSE ENCARREGADO

クラス名 CLASSE	担任名 NOME DO PROFESSOR	クラス構成 TIPO DE CLASSE	生徒数 No DE ALUNO	年齢 IDADE	使用教科書と副教材 LIVRO DIDÁTICO E MATERIAL SUPLEMENTAR
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	
		単 . 複 HO . HE		~	

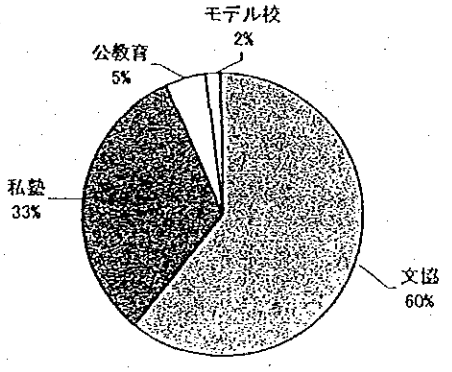
HO = HOMOGÊNEO

HE = HETEROGÊNEO



1・運営団体（総数 181 校）

文協	60,4%
私塾	33,0
公教育	4,9
モデル校	1,6
計	99,9

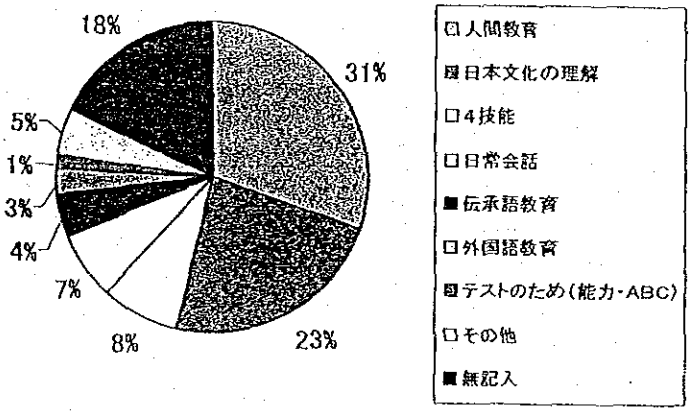


文協扱いの中には日本人会や寺、父母会なども含まれている。つまり経営者が教育の現場にたっていない学校である。私塾の中には公文（1％）も入れてある。また公教育の中には公立校・私立校そして大学が含まれている（この三者の比率はほぼ同率であった）。

98 年度の人文研がおこなった日本語教育の調査でも、文協扱いの学校が偶然にも同じ 60·4%となっている。私塾も 33·8%と近似値である。新しいところでは公教育の 4·9%。というのがあるが、この中には高校や大学での公教育が一括して入れられているので、全体としてはまだまだ僅少である。

2 ・教育目標（複数回答・総数 229）

人間教育	30,2%
日本文化の理解	23,1
4技能	8,0
日常会話	7,0
伝承語教育	4,3
外国語教育	3,0
テストのため（能力・ＡＢＣ）	1,3
その他	5,1
無記入	17,9



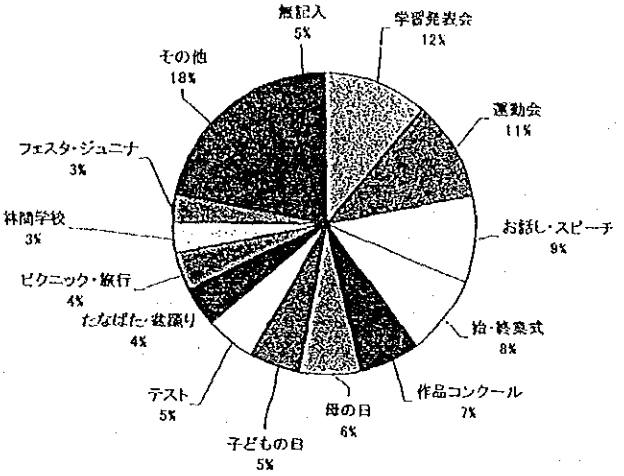
学校の歴史および教育目標欄は自由書きこみ式になっているため、実に多くの種類のものがあげられたが、重複するものもあり、表記の 7 項目に分類整理した。

また、教育目標を空欄にしていた者が 17·9%もあった。目標なしに日本語教育の現場に立っているとは考えられないが記入されていなかった。アンケートの設問に問題があるのか、真に目的なしに教えているのか考えさせられる。また、人間教育と大ざっぱにまとめたが、日本語教育を通して日伯の架け橋となれるような人間を育成したいというものである。何校かがあげていた全人教育や明るいよい子を育てる情操教育などもこの中に入れた。日本文化も日本語教育を通して、日本文化の理解に役立てたいというものである。4技能の中にはもちろん話す聞くがあるのだが、会話と明示しているものとを分けると表のようになった。また日本人らしさを強調している伝承語教育は別項目にし、外国語としての日本語教育とは分けてある。

98 年度の人文研調査では 49%が 4 技能の修得を目標に掲げていたが、最近では人間教育と日本文化理解のためというのがその過半数を占めていることになる。いずれにしろ、日本語教育つまり日本人精神教育という認識は過去のものとなりつつあるようである。

3・年間の主な行事（複数回答・総数 728）

学習発表会	11,2%
運動会	10,5
お話し・スピーチ	9,2
始・終業式	8,0
作品コンクール	6,5
母の日	6,3
子どもの日	5,4
テスト（能力・ＡＢＣ）	5,1
たなばた・盆踊り	4,2
ピクニック・見学旅行	4,0
林間学校	3,2
フェスタ・ジュニナ	3,0
その他	16,6
無記入	5,0

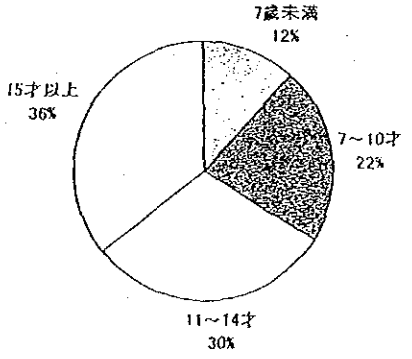


無記入５％のうち 40%は成人を扱っている学校。残る 60%は学習者が僅少であるためにこれといった行事を行わない模様。また、目白押しに行事が並べられているところもあり、肝心の日本語がどうなるのかと心配になるが、これは経営団体である地元文協の行事にすべて参加するためと見られる。教育とは別の次元で、日系人間の交流・親睦に一役買っている日本語学校の姿が見える。

また、92 年度のセンター調査の、学校行事の種類欄と比較して見ると、運動会や学芸会の上位は動かない。前回トップだったお話大会が 3 位になったのはサンパウロ市内での同行事がなくなったためと考えられる。しかしまだ 3 位にあるということは地方でのお話し大会は健在だということであろう。

4・学習者数（総数 6,620 名）

7 歳未満	783（12%）
7～10 才	1479（22%）
11～14 才	1968（30%）
15 才以上	2390（36%）



ここですこし箇条書きにしてまとめてみよう。

1 校当たりの平均学習者数　36･37 名

（92 年度調査では 58～59 人）

教師（助手含む）一人当たりの学習者数　16･2 人（92 年度調査では 28･12 人）

学習者増加校　19･23%（35 校）

学習者減少校　26･37%（48 校）

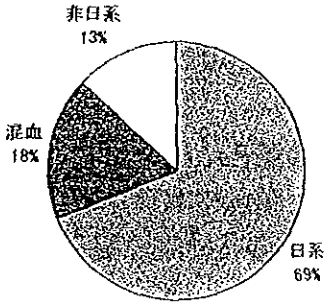
（いずれも 1999 年度に比較して）

学習者の64%は依然として、幼少年（15才以下）で占められている。

前記センターの調査（92年）では、16才以上の成人が29･3%。現在は多少伸びて36%だが、調査年齢が15才と16才というようなずれがあるために、数字的にはあるいはほぼ同じかもしれない。いずれにしろ全体としては大きな変化は見られない。しかし、この36%の成人学習者に対する取り組みは依然として枠外におかれている感が強い。

また、日系人と非日系人の比率を見ると以下の通り。

学習者総数	６，６２０名	(100%)
日系	４、５９３名	(69%)
混血	１，１５９名	(18%)
非日系	８６８名	(13%)



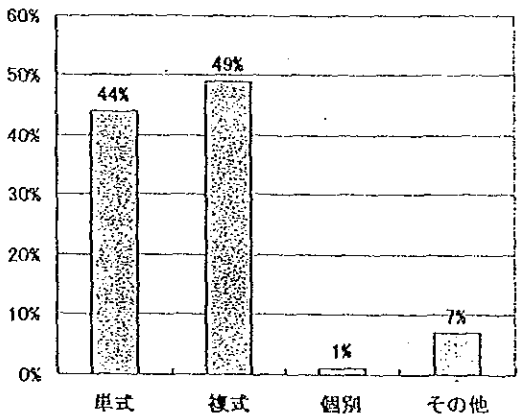
92年度のセンター調査では、日系学習者が82･5%であったが、現在は69%となっている。その分混血が増え18%（前回10･9%）、また非日系が13%（前回5･8%）と大きく伸びているが、これは公教育が行われていることによるものであろう。

しかし、日系以外の混血と非日系はあわせても３１%。将来的には増加の傾向にはあるが、現時点ではブラジルにおける日本語教育はまだまだ、日系人に負うところが多いということになる。

5・クラス構成

回答総数775クラス）数字の単位はクラス

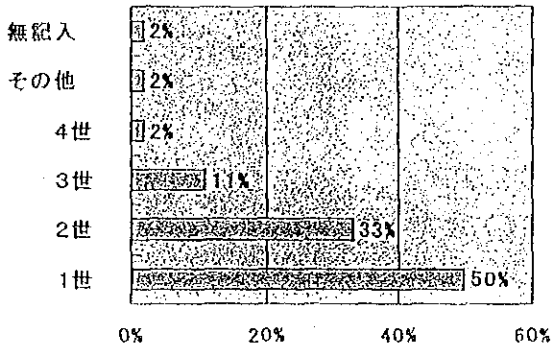
単式	340（44%）
複式	376（49%）
個別	07（1%以下）
その他	52（7%）



一人の教師でも、複数の担任クラスがある場合は、適宜に単式と複式を使い分けている。また、学校の方針として単式授業を行っているところもある。以前は絶対少数だった単式授業は44%（前回11,95%）と飛躍し、複式との差は縮小してきている。

6・教師の世代（375名）

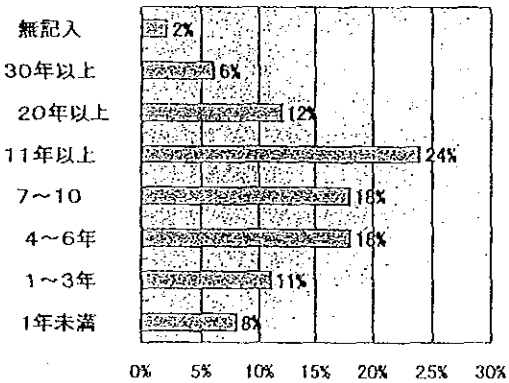
1世	188名	(50%)
2世	124	(33%)
3世	42	(11%)
4世	6	(2%)
その他	7	(2%)
無記入	8	(2%)



＊「その他」の内訳は5世、帰化人、非日系など半数が1世教師で、うち8割が女性教師である。
ある会合でブラジルの日本語は女性語だけになるのではないかと憂慮する声が聞かれたが、それほどさように女性教師が多い。やはり日本語教師では生活が成り立ちにくいために家庭経済をつかさどる男性から敬遠されるのであろう。

7・教師歴（375名）

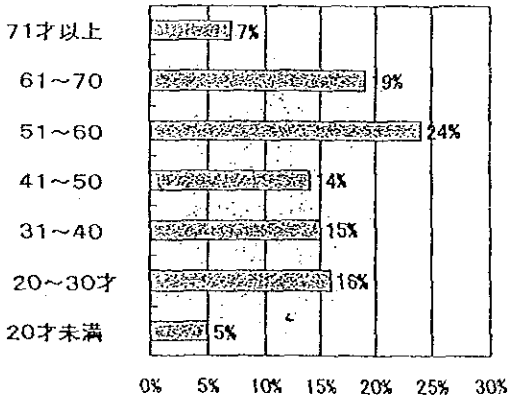
1年未満	29名	(8%)
1～3年	43	(11%)
4～6年	68	(18%)
7～10	69	(18%)
11年以上	91	(24%)
20年以上	46	(12%)
30年以上	21	(6%)
無記入	8	(2%)



例外もあるだろうが、10年以上のベテラン教師はおおむね1世教師と考えられる。40%とう数字をみても的は外れていないといえるだろう。3年未満というのは一応若手教師と考えてよい。徐々にではあるが後継者が育っていると見られる。

8・教師年齢（助手を含む408名）

20才未満	20名	(5%)
20～30才	65	(16%)
31～40	61	(15%)
41～50	57	(14%)
51～60	98	(24%)
61～70	79	(19%)
71才以上	28	(7%)



教師の男女比率

男性教師　１９％（教師＋助手＋青年ボランテア３名を含む）

女性教師　８０％（教師＋助手＋青年ボランテア２２名を含む）

ここで見えてくるのは、ブラジルの日本語教育は、まだ 1 世の、50～70 代の女性教師（50%）によって支えられているということである。と同時に 20～30 代の教師が 30%を超えているから、かなり若手の教師が育ってきていると考えられる。ベテランの世代がまだ現役にある間に後継者の育成をすることが急務といわれてきたがある程度は実績を上げているといえる。同時にまた数を増やすばかりでなく質の向上を図ることも忘れてはならないことであろう。

９・使用教科書　（複数回答　総数 953）

日本サイド出版物　（上５位）

新日本語の基礎	66	(6,9%)
ひろこさんのたのしい日本語	57	(6,0%)
文化初級	38	(3,9%)
東京書籍	35	(3,6%)
みんなの日本語	32	(3,3%)

ブラジル・サイド出版物　（上５位）

きそにほんご	192	(20,0%)
１・２・３にほんごで話しましょう	83	(8,7%)
アリアンサ・バジコ	76	(7,6%)
ＫＡＩＷＡ・ＢＯＯＫ	59	(6,1%)
ジャカランダ・イペ・パイネイラ	36	(3,7%)

使用教科書には、かなり顕著な変化が見られた。日本サイドでは、「新日本語の基礎」がトップに出たこと。また、全体でも前回トップだった「１・２・３日本語で話しましょう」が、当時名もあげられていなかった「きそにほんご」にかなりの差をつけられたことである。

１０・助手（33 名）

年齢

15 歳以下……　２名（6%）

16～20……　８名（24%）

21～30……　11 名（33%）

31～40……　６名（18%）

41～50……　３名（9%）

無記入……　３名（9%）

教師歴

1 年未満……　４名（12%）

1～5 年……　25 名（75%）

無記入……　４名（12%）

世代

1世……	2名	(6%)
2世……	9名	(27%)
3世……	17名	(53%)
混血……	2名	(6%)
非日系……	2名	(6%)
帰化人……	1名	(3%)

助手 33 名に対する内訳である。15 才以下の未成年者が 2 名いることが気になる。幼稚園の助手であろうか。また助手の期間は教師として熟練するための間の 1～2 年と考えられるが、5 年も助手としている者のいることは、雇用側で考慮してやるべきであろう。一人前の教師になるためのプロセスとして助手をするのが自然だと思われるからである。万年助手では気の毒であろう。

「教師の世代」項の「その他」の欄の 2%は、日系以外の教師だが、助手にも非日系人や混血がいることがわかる。これらの人たちが順当に成長して、優れた教師になってくれることを期待してやまない。また助手の半数は 30 才までの若い人たちなので、研修会などに出られる機会をあたるなど周囲の理解と協力があってはじめて後継者が育つといえる。

（文責・中田　みちよ）

あとがき

調査に関してはまるっきり未経験の部員がはじめて取り組んだ仕事であるため、集計に手間どった。そればかりでなくまちがいも多く、結局、2度集計のしなおしをした。いまはなんとかやり終えたという安堵感でいっぱいである
している。

先年、日本研修の機会が与えられたときに、何かブラジルの日本語教育に関するものを書こうとすると、資料のないことに気付かされた。皆無といってもいいほどで、ブラジルに帰ったらできるかぎりのものを文字化しようと心に決めていた。そして及ばずながら日本語教育に携わる者の意識や学習者の意識なども調査をし、それを踏まえた上で、ブラジルにあった日本語教育の形を模索しなければならないとも考えた。

日本語教育に関しては、海外最大の日系社会を抱え、一番古い歴史をもついわば老舗でありながら、例に引くのはいつもカナダやオーストラリアの日本語教育に関する資料ではあまりにも情けない。正規に大学で日本語学を専攻したわけでもない私たちには、手にあまることであるかもしれないが、しかし、だれかが始めなければ、時はたち、すべてが忘却のかなたに押し流されてしまう。

これが調査研究部設立の弁である。そして本調査が第1回目の仕事である。ささやかな、そして意に満たないものではあるが、長い道のりの第1歩をしるすものとして、私たち研究部員には意義深いものである。

2000年9月

調査研究部
中田　みちよ（文責）
佐々木　佳子
江藤　マリア
斉藤　のりへ
野村　ローザ

2001年度

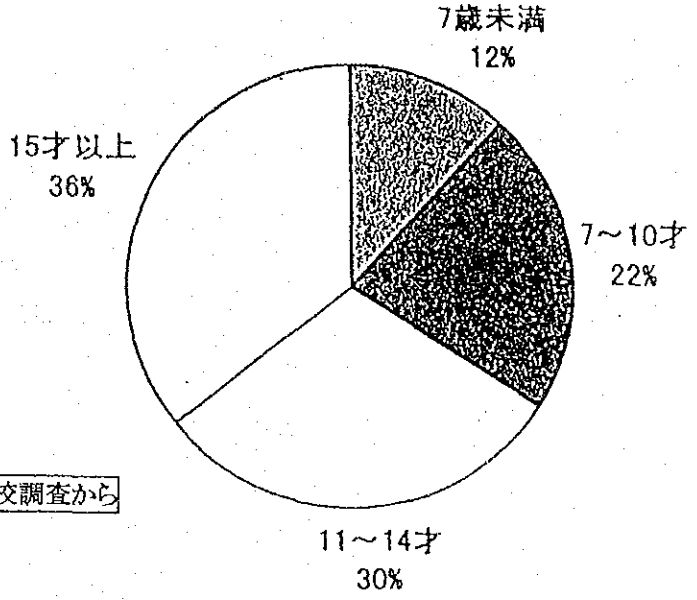
日本語学習者の意識調査

成人学習者のプロフィール

日語普及センター

調査・研究部

① 調査目的

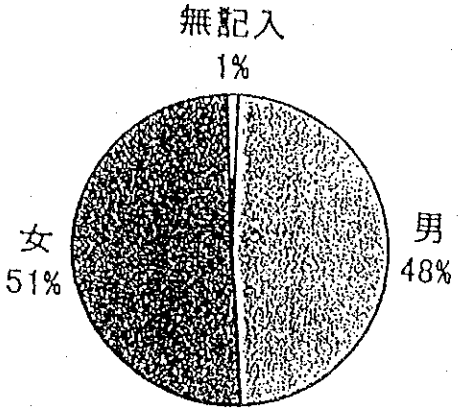


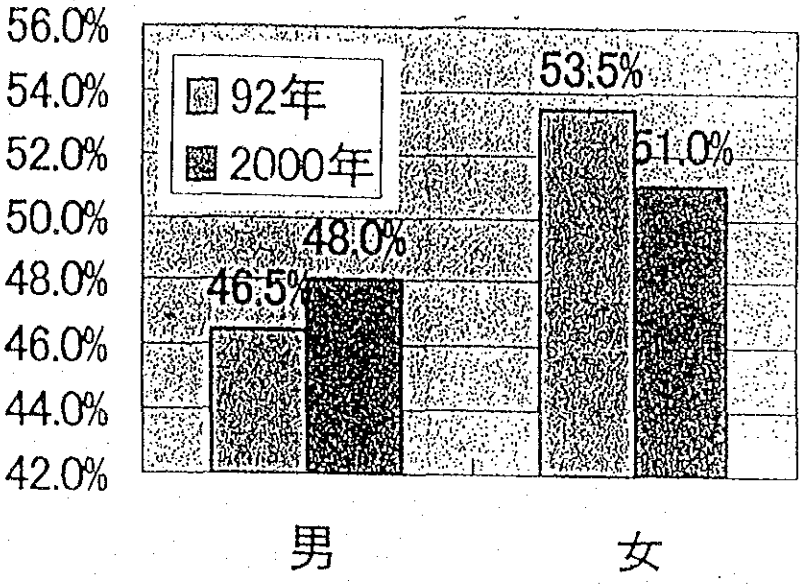
2000年度の学校調査から

日本語学校や日本語教師の関する調査
学習者自身が回答する意識調査
　学習者はどんな人たち
　目的は何か
　何がが好きで何が嫌いなのか
　何年ぐらい勉強しているのか

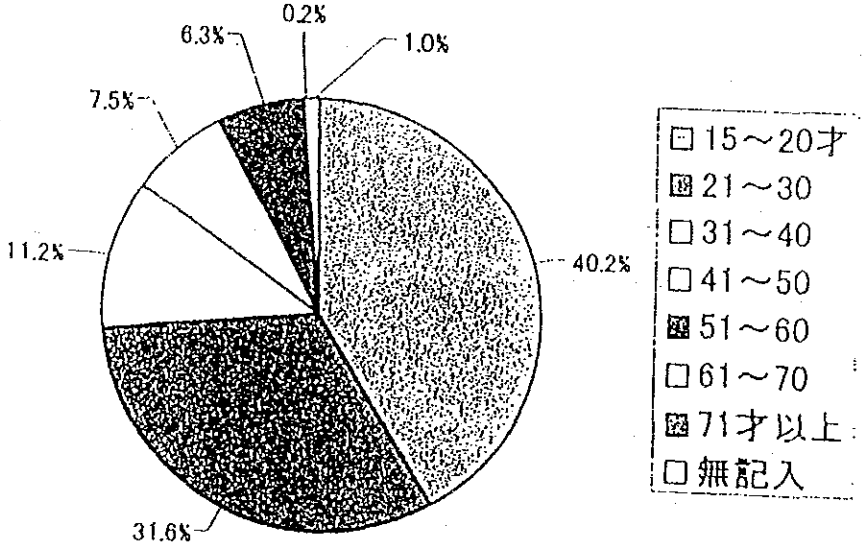
アンケート用紙はポ語
配布1000枚――回収822枚――無効14枚
協力校
　ブラジリア・クリチーバ・サンパウロ市内の11校

② 回答者性別


無記入
1%
女
51%
男
48%

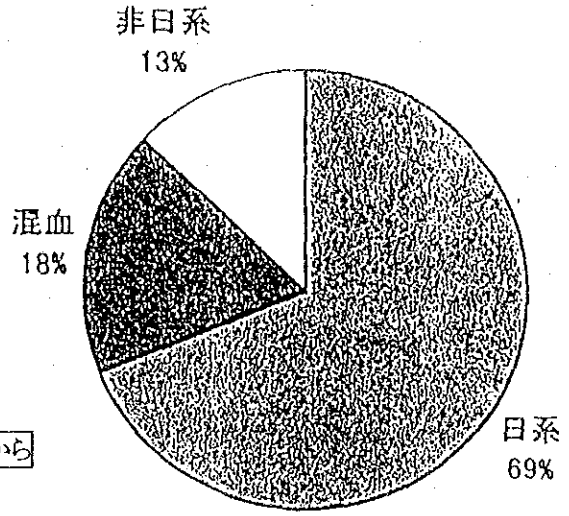

56.0%
54.0%
52.0%
50.0%
48.0%
46.0%
44.0%
42.0%
92年
2000年
53.5%
51.0%
48.0%
46.5%
男
女

③ 年齢


0.2%
6.3%
1.0%
7.5%
11.2%
40.2%
31.6%
15～20才
21～30
31～40
41～50
51～60
61～70
71才以上
無記入

④　国籍

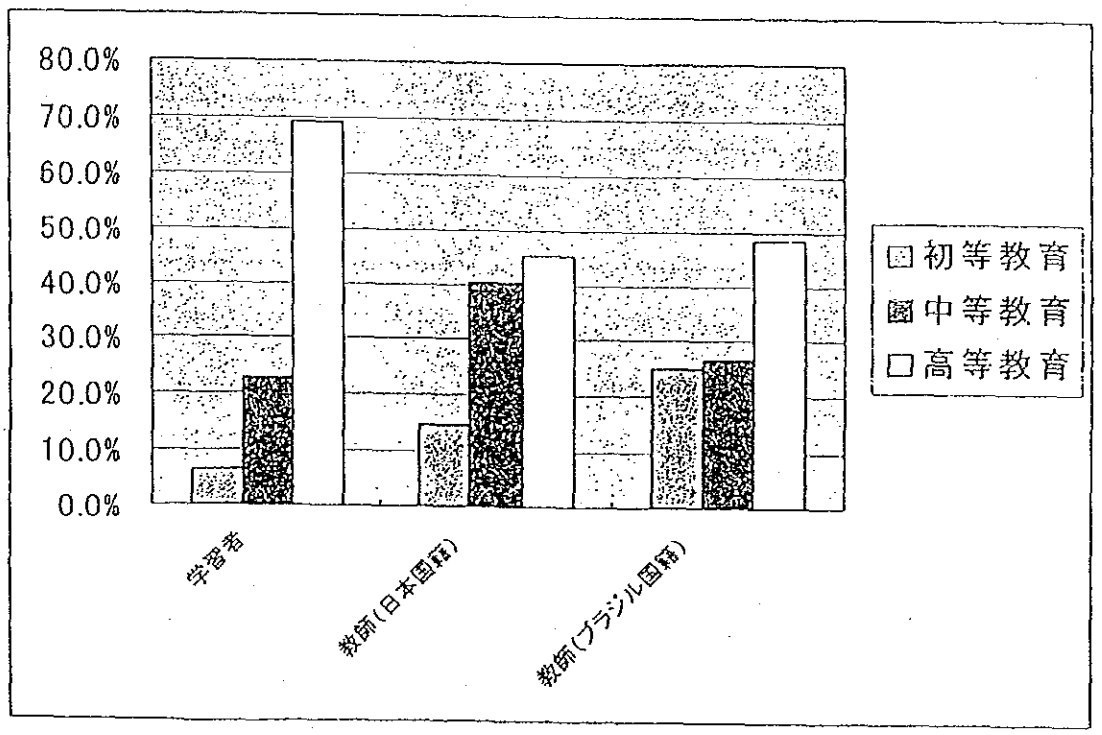
本人	ブラジル	757 名	93,6%
	日本	37	4,5
	その他	10	1,2
	無記入	04	1%以下



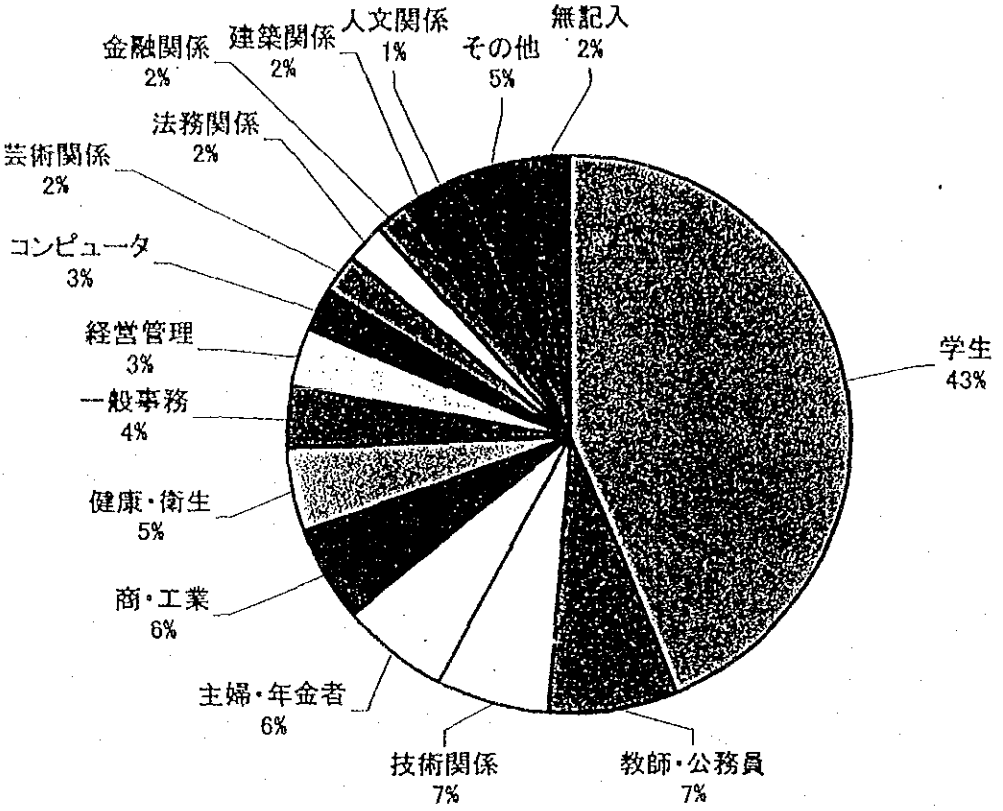
2000 年度の学校調査から

⑤　学歴

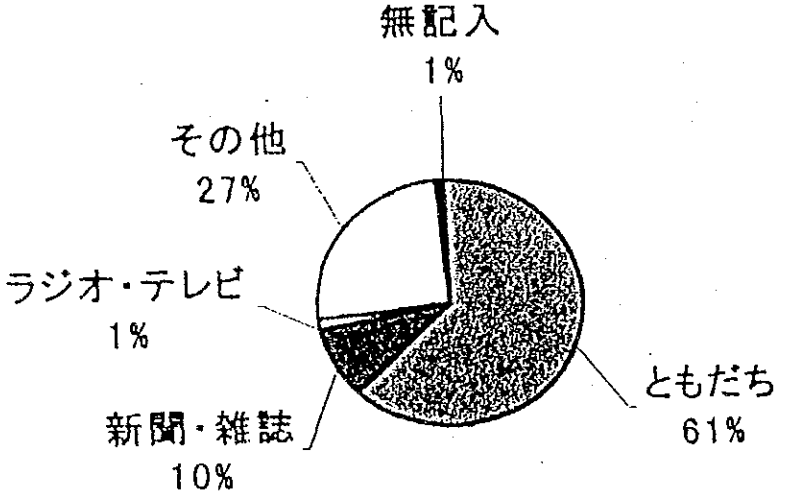
	学習者	教師（日本国籍）	教師（ブラジル国籍）
初等教育	06,6%	14,7%	25,1%
中等教育	22,8..	40.2	26,6
高等教育	69,3	45,3	48,3



⑥　職業



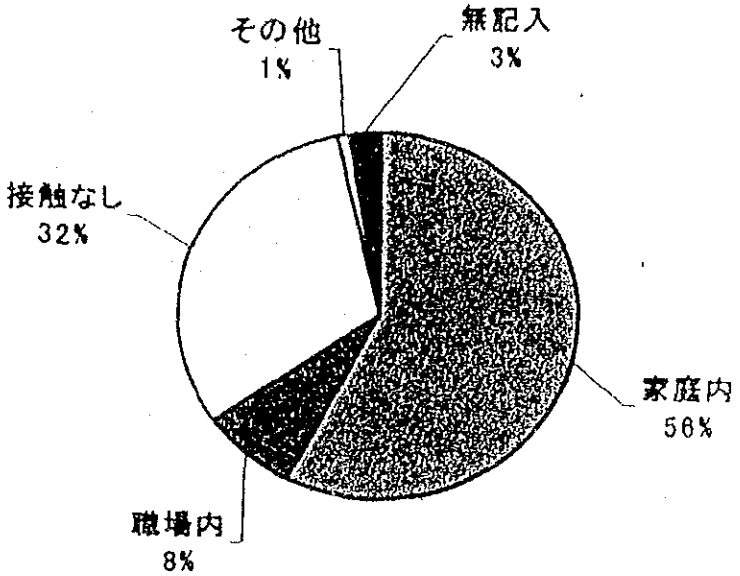
⑦　何通して講座を知りましたか



⑧　何年勉強していますか

6ヶ月未満	345名	42,6%
1年	152	18,8
1･5年	72	8,9
2年	54	6,6
2･5年	29	3,5
3年	42	5,1
3･5年	11	1,3
4年	19	2,3
4･5年	13	1,6
5年以上	65	8,0
無記入	06	1%以下

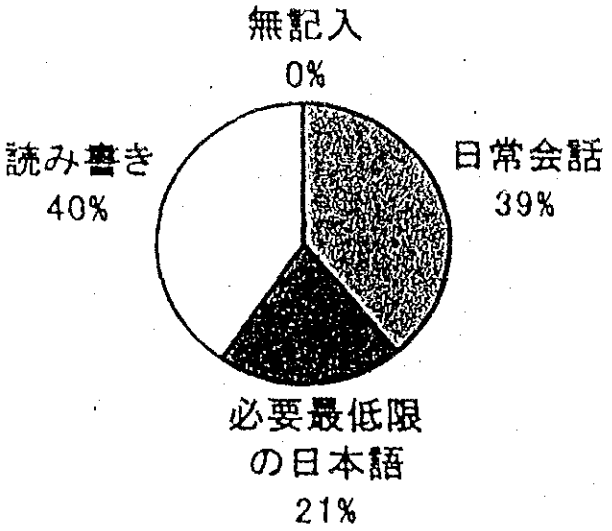
⑨　日本語との接触は



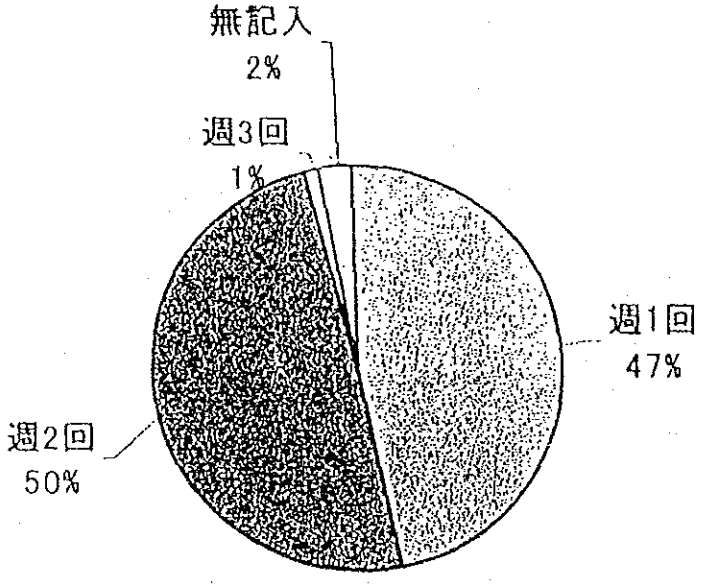
⑩　家族の中でだれが日本語を話しますか

父親	377名	17,5%
母親	376	17,5
きょうだい	107	4,9
祖父母	422	19,6
曾祖父母	90	4,1
おじ・おば	360	16,7
いとこ	155	7,2
義理のきょうだい	42	1,9
むすこ・むすめ	09	1%以下
配偶者	44	2,0
恋人	44	2,0
だれも	45	2,0
その他	02	1,0
無記入	75	3,4

⑪　何を学びたいですか



⑫　学習時間



⑬　学習動機

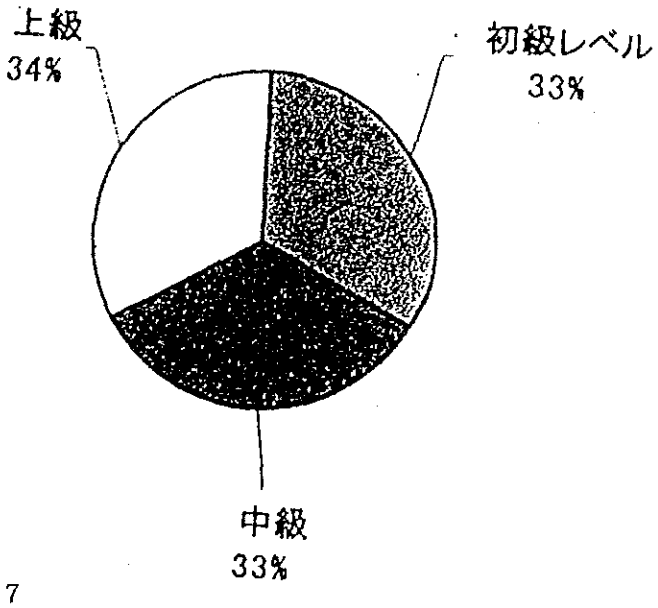
文化的関心（スポーツ・マンガ・料理など）	523名	20,4%
文字への興味	398	15,5
言葉そのものへの興味	471	18,4
宗教	81	3,1
留学のため	157	6,1
日本で働くため	112	4,3
就職のため（ブラジルで）	176	6,8
親の強要	22	1%以下
日系人であるため	250	9,7
配偶者が日系であるため	28	1,0
親類・友人が日系であるため	137	5,3
履歴書に加える（特技として）	374	14,6
無記入	75	2,9

98 年度の人文研調査の世代別子弟の日本語学習目的の項を取りだしてみたのが下記の表である。オリジナルは世代別になっているが、ここでは世代別ではなく、「1 世、2 世、3 世以下、非日系」の合計を表記した。

知っているのが当然	33,6%
留学・仕事に役立つ	25,8
祖父母との会話に必要	2,9
子供が習いたかった	8,6
日本人らしさを身につけるため	29,7
その他	1%以下

⑭　他の言葉もやっていますか

英語	618	64,2%
フランス語	57	05,9
スペイン語	136	14,1
韓国語	07	1%以下
中国語	06	1%以下
その他	34	3,5
無記入	104	10,8



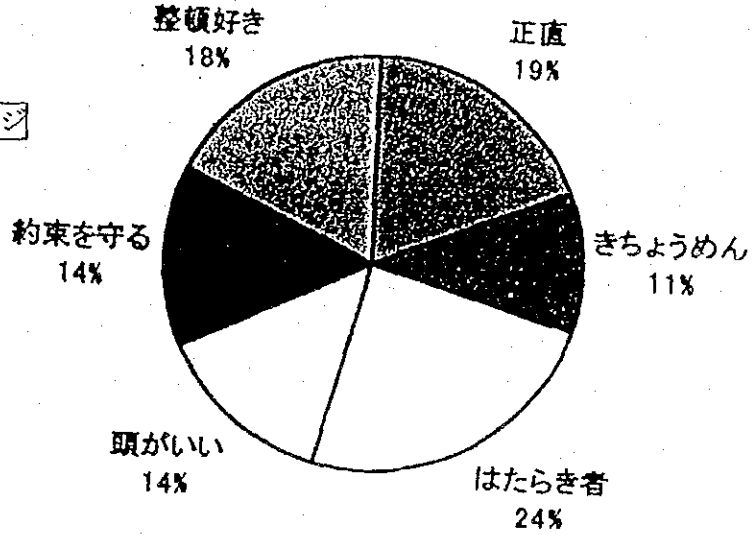
⑮　何かスポーツをやっていますか

やっている・385（44,9%）　　やっていない・472（55%）

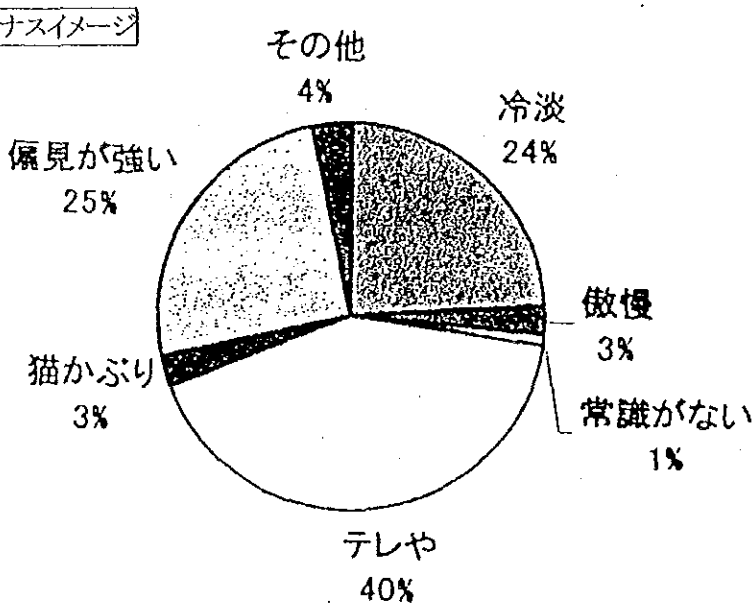
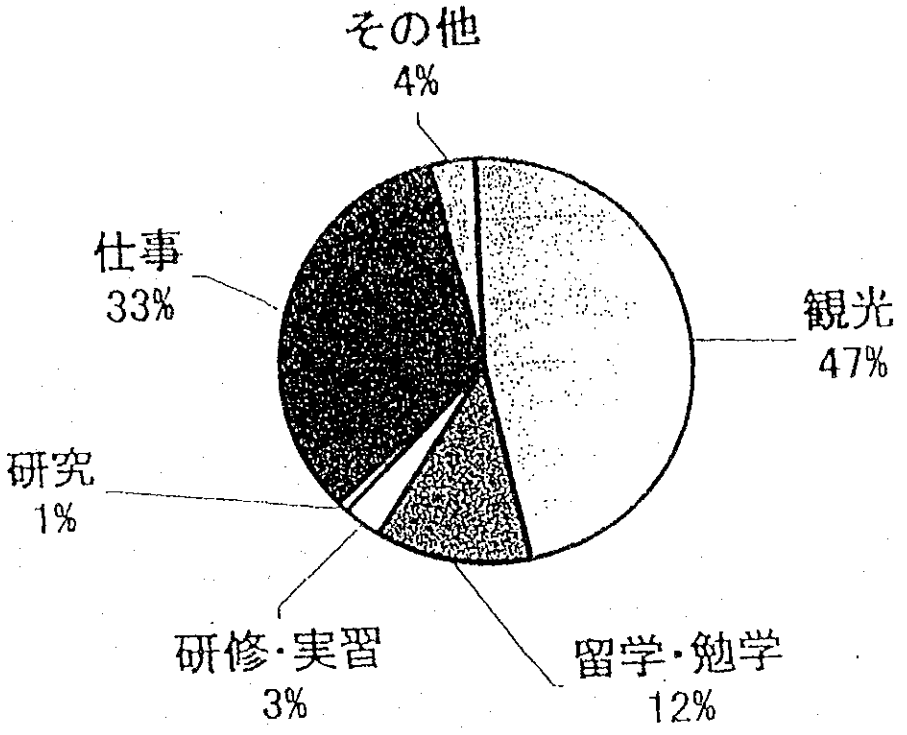
スイミング	120名	22,6%
柔道	19	03,5
カラテ	21	03,9
卓球	34	06,4
テニス	55	10,3
バレーボール	88	16,6
その他	193	36,4

⑯　日本人観

プラスイメージ



マイナスイメージ



⑰　日本へ行ったことがありますか